

令和6年能登半島地震災害支援基金 ながの寄付助成(第2期助成)
実績報告書

2025年 6月 30日

公益財団法人長野県みらい基金 理事長 様

所在地 〒 380-0836
長野市南県町685-2
長野食糧会館5階
団体名 長野りんどうライオンズクラブ
代表者職氏名 森山栄治



「令和6年能登半島地震災害支援基金」の助成事業が完了したため、下記のとおり報告します。

記

1 事業名

能登の子供たち心の支援

2 助成対象事業の実施期間

2024 年 8 月 10 日 ~ 2024 年 8 月 11 日

3 実施した取り組み

(この事業で具体的に行った災害支援、誰に・いつ・どこで・何をどのように行ったのか)

能登半島地震発生当初より様々な支援活動を行ってまいりました長野県ライオンズクラブですが被災後、被災地の人々は能登半島の特異な地域性の為中々金沢市や富山市まで出て来ることができない状態でした、長野県ライオンズクラブと長野県は包括連携協定推進の締結を結んでいます長野県から能登半島の子供たちの心の支援とのお話がありました、ライオンズクラブは毎年海外からの青少年の受入れを行っておりますので受入れ体制も出来ておりますのですぐに企画を考えました、8月10日に長野市飯綱高原で毎年行っている火祭り花火大会に決め募集を輪島方面で話を進めました、現地ライオンズクラブ、珠洲市役所、北鉄奥能登バス等々に協力依頼ポスター掲示も直接持参し内容を伝えお願い致しました。結果全員避難生活をされている方々でした、ドライバーさんも仮設住宅から来たとの事でした
8月10日AM8:00頃出発輪島市から金沢市高速道路昼食妙高インターから戸隠経由PM2:00飯綱着、サイクリング、花火大会参加、場内アナウンスで何回も能登から子供をご招待した事が紹介されました、花火大会主催者から特別招待席ご提供、ライオンズクラブメンバー20名レオクラブメンバー10名以上参加花火大会終了後ホテル主催のスイカ割りやキャンプファイヤー
8月11日ライオンズクラブ、レオクラブ同行戸隠神社奥社現地案内人同行し散策、昼食戸隠そば体験、善光寺参拝、エムウェーブ見学長野オリンピックビデオ鑑賞PM3:00今回の関係者30名以上でお別れお見送りさせて頂きました。

4 達成できた状態・成果

(この事業で具体的に実現できた状態、被災地や被災者の方はどのような助けを得られたのか)

今回の支援で一番良かったと思うのは一人の方が花火の最中に大泣きしている姿をみて今までの辛かった事や泣くに泣けない状況が一気に溢れたのかなと思いました
関係する全ての方々がご協力、ご支援があり成功したと思います。
長野県も果物狩りや収穫体験、ウィンタースポーツ等々に支援したいとの事です

5 本基金の寄付者へのご報告(メッセージ)

今回初めてみらい基金の事知り申請し補助を受けることが出来ました、今後もよろしくお願いします。
ありがとうございました。

6 事業の実施状況を示す書類(別添)

- (1) 収支報告書(様式第3-1号)
- (2) 収支報告書の証拠書類(領収書原本等)
- (3) 活動の実施風景写真(外部公開可能なもの)
- (4) その他参考資料(事業の経過や成果を証するもの)







令和6年能登半島地震災害支援基金 ながの寄付助成（第2期助成）

実績報告書

2025年 1月 13日

公益財団法人長野県みらい基金 理事長 様

所在地

〒391-0100

長野県諏訪郡原村 16267-521

団体名

特定非営利活動法人絆 JAPAN

代表者職氏名

理事長 笠原 正好



「令和6年能登半島地震災害支援基金」の助成事業が完了したため、下記のとおり報告します。

記

1 事業名

令和6年能登半島地震災害支援活動

2 助成対象事業の実施期間

2024年 8月 2日 ～ 2024年 12月 25日

3 実施した取り組み

（この事業で具体的に行った災害支援、誰に・いつ・どこで・何をどのように行ったのか）

8月2日石川県鳳至郡能都町宇出津へ小型重機、ダンプトラック回送

8月3日～8月10日

石川県鳳至郡能都町宇出津に2t小型重機と3tダンプを搬入活動開始しました。

活動内容：家財運び出し運搬作業 土砂片付け運搬

被災家屋内片付け作業、室内養生、被災家屋修繕相談

お墓墓石復旧依頼案件復旧（前回重機が入れず残っていたものも含む）

11月16日～11月18日

石川県鳳至郡能都町宇出津

活動内容：家屋修繕相談、傾聴活動

(様式第3号)

4 達成できた状態・成果

(この事業で具体的に実現できた状態、被災地や被災者の方はどのような助けを得られたのか)

災害ボランティアセンターから、一般ボランティアでは困難な作業を依頼、土砂片付け、建物のお灸修理を行った

被災したお宅は、高齢者が多く車やトラックを持っていないので、家財の片付け運搬作業は感謝された。

被災家屋の修繕相談等は、レザー機器を使いよろびや水平の等、目で確認でき、公費解体や、修理して住まれる等の決断の参考してもらえた。

住職からは檀家さんも被災したり、高齢でどうもできない、墓石を復旧し、お盆が出来ると檀家さんも喜んでおられるとお言葉をいただいた。

被災から半年以上もたっても不安や先もなかなか見えないときに、ボランティアさんが居ると話を聞いた責えて安心できると喜ばれた。

5 本基金の寄付者へのご報告(メッセージ)

災害支援活動に寄付金から支援いただけて、現地での活動がスムーズに達成できてとても助かりました。

今後も出来る限り、災害支援活動を続けてまいります。

6 事業の実施状況を示す書類(別添)

(1) 収支報告書(様式第3-1号)

(2) 収支計算書の証拠書類(領収書原本等)

(3) 活動の実施風景写真(外部公開可能なもの)

(4) その他参考資料(事業の経過や成果を証するもの)

令和6年能登半島災害支援
活動写真



ダンプトラックで土砂運搬



家財運び出し



室内養生



壁撤去・畳阿古美だし



室内養生 ブルーシート張り



墓石復旧

令和6年能登半島災害支援
活動写真

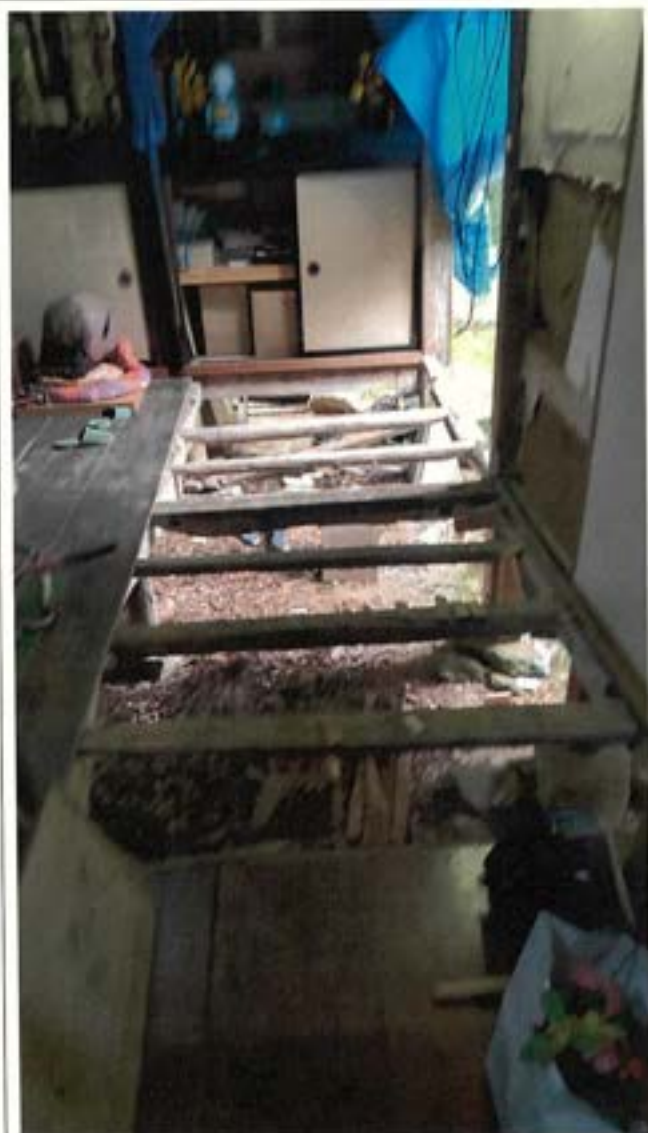


墓石復旧



バケット・ハサミ交換

令和6年能登半島災害支援
活動写真



令和6年能登半島災害支援
活動写真



令和6年能登半島災害支援
活動写真



令和6年能登半島地震災害支援基金 ながの寄付助成(第2期助成)

実績報告書

2025年 1月 15日

公益財団法人長野県みらい基金 理事長 様

〒381-3302
所在地 長野県上水内郡小川村高府 2876
株式会社小川の庄内
団体名 信州・小川村あったかおやきプロジェクト
代表者職氏名 権田公隆



「令和6年能登半島地震災害支援基金」の助成事業が完了したため、下記のとおり報告します。

記

1 事業名

信州・小川村 あったかおやきプロジェクト 2024

2 助成対象事業の実施期間

2024年 9月 16日 ~ 2024年 11月 17日

3 実施した取り組み

(この事業で具体的に行った災害支援、誰に・いつ・どこで・何をどのように行ったのか)

令和6年9月16日、17日 石川県羽咋郡志賀町長田地区

志賀町長田の集落は10数世帯。見竹神社で行われる萬燈会の準備と片づけをお手伝いし盛り上げた。参加人数11名と現地サポート2名で夕方から行われる萬燈会の準備中にプロジェクトの活動となるテント喫茶 OGAWAを開店した。信州の郷土食おやきを中心に手作りのクッキー、りんごを提供。地域の方が来店され喫茶スペースではボランティアと語らい、歌に音楽に楽しんだ。

令和6年11月16日、17日 参加人数は小学生2名を含む10名と現地サポート2名

・石川県鳳珠郡能登町宇出津仮設住宅(100世帯) テント喫茶 OGAWAを開店。信州の郷土食おやきを中心に小川村の農家さんから寄付された旬のりんごを提供した。テントには被災された方々が集い温かいおやきを食べながらボランティアスタッフや地域の方と交流した。

・石川県珠洲市宝立町鶴飼の宝湯様へ農家さんから寄付されたりんごの差し入れをする。

・石川県輪島市門前町道下仮設住宅(300世帯) テント喫茶 OGAWAを開店。温かいおやきとリンゴジュース、コーヒラテを提供。カラオケや活動メンバーの小学生2人が和太鼓のリズムで肩たたきをして地域の方々と交流した。

(様式第3号)

4 達成できた状態・成果

(この事業で具体的に実現できた状態、被災地や被災者の方はどのような助けを得られたのか)

高齢者や子供たちを含む被災者の居場所づくり

信州の郷土食おやきを被災地に届け温かい食事を食べていただこうと1月に始まった活動は、6月以降、おやきの他にコーヒー、かき氷など各種飲食物を加え、喫茶として被災者の方々が集いふれあう場所・空間を提供してまいりました。

被災当初は衣食住のうち、避難所では食を確保することが求められましたし、寒い時期故、温かいおやきと野菜具たつぷりのみそ汁がとても喜ばれました。

半年を経過する中で、避難場所での生活に疲れたり、仮設住宅も出来上がり、移住して生活が孤立していく中で、集い、コミュニケーションを持つことは、精神的な面でホッと、一息つくことができたようです。

高齢者が多く、単調になりやすい仮設住宅の生活の中で、非日常的な喫茶の開設は待ち焦がれるイベント的意味を持っていたようです。

活動するスタッフにとっては、被災地の現状を自分の目で見ることができ、被災者との交流を持つことができたという経験は、何物にも代えがたく、「遠くからきてもらって、本当にありがとう」との御礼の言葉は嬉しく、逆に励まされたようです。

また、現地のボランティア活動グループ(能登町宇出津キッズ見守りハウス)との共同事業は、現地の活動を応援すると同時に、子供たちの居場所づくりに貢献できました。そして、志賀町のスタッフとの活動は、「恩返し」として小川村のおまつりにも参加していただき、行政間の交流に発展しました。

5 本基金の寄付者へのご報告(メッセージ)

信州の郷土食おやきを被災地に届け温かい食事を食べていただこうと1月に始まった活動は、お蔭さまでテント喫茶の開設に発展し、能登行きが11月現在、9回を数えるに至りました。

高齢者が多く、単調になりやすい仮設住宅の生活の中で、非日常的な喫茶の開設は待ち焦がれるイベント的意味を持っていたようです。

活動するスタッフにとっては、被災地の現状を自分の目で見ることができ、被災者との交流を持つことができたという経験は、何物にも代えがたく、「遠くからきてもらって、本当にありがとう」との御礼の言葉は嬉しく、逆に励まされたようです。

また、現地のボランティア活動グループ(能登町宇出津キッズ見守りハウス)との共同事業は、現地活動を応援すると同時に、子供たちの居場所づくりに貢献できました。ありがとうございました。

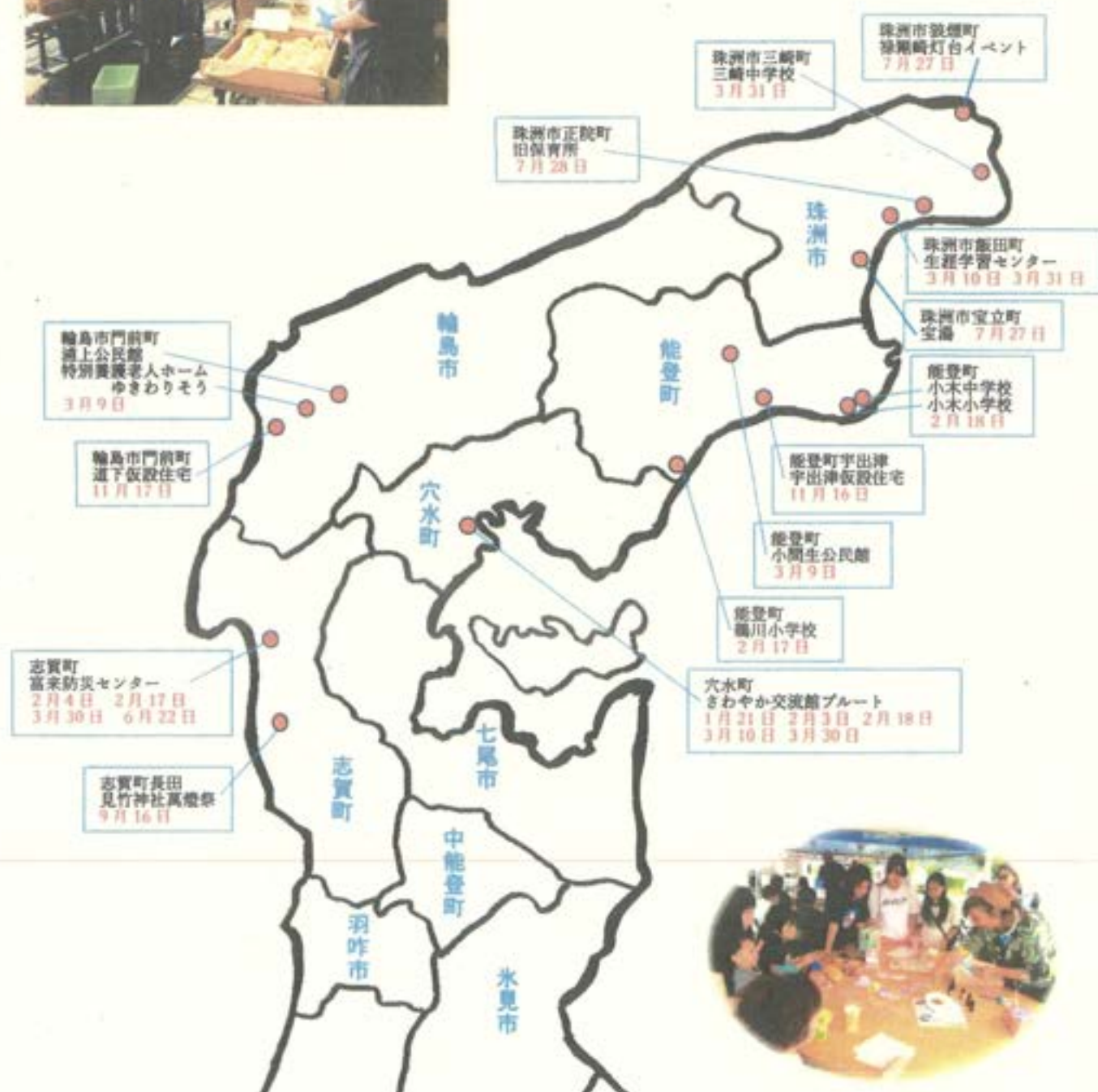
6 事業の実施状況を示す書類(別添)

- (1) 収支報告書(様式第3-1号)
- (2) 収支報告書の証拠書類(領収書原本等)
- (3) 活動の実施風景写真(外部公開可能なもの)
- (4) その他参考資料(事業の経過や成果を証するもの)

信州・小川村あったかおやきプロジェクト 2024 の炊き出し訪問先 2024 年

1月～3月までは
信州の郷土食「おやき」を
中心とした炊き出しを行いました。

5月～11月はおやきの他、
飲み物なども加え
「移動喫茶 OGAWA」として
やすらぎの空間を提供させていただきました。



ご支援いただいた皆様

○ご寄付（順不同）

関口さち子様 ラフターヨガの皆様 飯塚敬一様
深田勲様 小林加珠様 祭り会場寄付（志賀町長田）
匿名の皆様

○物資などのご提供（順不同）

矢木コーポレーション(株)様 高府貝印石油様
萱津寿津子様 小林若志様 和田保文様
黒木倫世様 山口カーラ様 池田政勝様
匿名の皆様

○ご協力（順不同）

㈱小川の庄様 食事処味菜様
小川村社会福祉協会様 小川村公民館様
小川村役場様 チームにせはうず様

ありがとうございます。

みなさまのあったかい気持ちをあったかいテント喫茶として被災地へお届けします。

○第8陣(第5回テント喫茶OGAWA)参加者

川又啓一 池田政勝 村上翔 萱津寿津子
山口カーラ 西原美子 山下まどか 酒井若菜
亀田望 権田公隆 丸田勉
現地サポート チームにせはうず
(中西光路 板尻寿彦)

宿泊場所：安入寺

“信州・小川村あったかおやきプロジェクト2024”
は、温かいおやきで能登半島地震の被災地を応援しようと1月10日に立ち上がった、住民、企業、村行政が三位一体となり取り組むプロジェクトです。阪神淡路大震災や東日本大震災でおやきを提供してきたつながりを引き継ぐものです。

発行：信州・小川村あったかおやきプロジェクト2024事務局
住所 長野県上水内郡小川村大字高府 2876 ㈱小川の庄内
電話 026-269-3760
E-mail attakaoyaki@gmail.com

あ
っ
た
か
お
や
き
通
信

vol. 8



志賀町長田の集落は10数世帯。萬燈祭は、担ぎ手不足で神輿が出せない代わりに地区が平成20年に始めました。神社境内や川べり、集落に続く道路にも一万本を超える竹灯籠が並べられます。(志賀町HPより) この祭りを作り上げ、けん引してきたのが、あったかおやきプロジェクトをサポートしてくれている中西光路さんである。

第8陣(第5回テント喫茶OGAWA)経過

【訪問先】

石川県志賀町長田 見竹神社 萬燈会

【目的】

活動でお世話になっているチームにせ坊主 中西さんの地元のお祭り(萬燈会)をお手伝いし盛り上げ、能登半島の復興を願う。

【経過】

9月11日(水)

参加スタッフ打ち合わせ
バステイ高府

9月15日(日)

13:00 資材準備
14:00 トラック積み込み

9月16日(月・祝)

7:00 小川の庄事務所 出発
11:20 志賀町長田中西邸前会場 着
12:00 現地スタッフと一緒に昼食
14:30 テント喫茶開店
16:00 神事例祭
17:00 慰霊祭 行燈灯火 ステージ開演
22:00 ステージ閉演
22:30 喫茶閉店
23:30 安入寺移動 懇親会 就寝

9月17日(火)

7:00 起床
7:30 片付けトラック積み込み
8:00 朝食
8:30 行燈などの片付けお手伝い
11:00 出発
13:30 昼食
16:20 小川の庄着 荷下ろし 借用物返却
18:00 トラック返却

【喫茶メニュー(提供物)】

食べ物(おやき、オーストラリアソフトクッキー、りんご)、飲物(珈琲、りんごジュース、シソジュース、かき氷)、出し物(酒井若菜さんの歌)



◀ 毎年9月16日に、長田の見竹神社で行われる萬燈祭。暗くなるうちに、より幻想的な風景となり、やさしい灯りが里山の秋を彩っていきます。

農

具の一つ「ころがし」(昔の田植え前の道具)に障子紙を貼ったものが神社境内や川べり、集落に続く道にも並べられ、3500本のろうそくを灯します。神社の境内の斜面には2000個のブリキの器にキャンドルを灯し、富士山と五重の塔と「祈り」の文字が表現されており、日没後、ろうそくが灯された時には人生初めての光景に感激し「すごい!すごい!」の連発でした。

広場はコンサート、石川県の民謡、佐渡おけさの踊り等々、皆で楽しませてもらいました。

私も7回活動に参加させてもらいましたが、味噌汁担当だった為、被災者の方ともほとんどお話しできずに終わっていましたが、今回は違いました。石川県にはおやきの文化がなく皆さんが美味しい、おいしいを連発。リクエストも含めて皆さんの笑顔に触れ、普段仕事をしているこちらでも嬉しくなりやる気が出てきました。今回行った地域は被害が少なかったのか、皆さんがお祭りを盛り上げようと一生懸命の姿が頼もしかったです。

翌日は片づけの手伝いを約3時間。暑い中本当に大変でしたが、満足のいく活動でした。おやきプロジェクトは回を重ねて行く度にメンバーが代わりますが、何とチームワークの良いことか。自分自身に問いかけてみましたが、やはりボランティア精神が一番。その上仲良く楽しくできたのも役員さんのおかげと深く感謝いたします。

チームのメンバーは代わっても目的は1つ。素晴らしい行動に感動して帰ってきました。(荻津寿津子)

日と平日にわたる日程にもかかわらず、大勢が参加出来て良かった。これも現地で毎回私たちのボランティア活動を支援いただいている「チームにせほうず」との交流活動のおかげだ。朝7時に積み込みを終え、休憩しながらスタッフ一

祝

私にとっては初の能登半島訪問(&初の本プロジェクト参加)でした。志賀町の見竹神社萬燈祭でのご支援は、「萬燈」の文字の通り、神社・周辺一帯に灯籠が並べられ、夜には幻想的な風景とボランティア有志によるイベント(踊りや歌唱等)を楽しむことができました。テント喫茶OGAWAを訪れる方々の中には「前回、防災センターでお世話になった」「またおやきを食べられて嬉しい」等の声があり、本プロジェクトがこれまでの7回の活動を通して地域の方々に認知されていること、また小川村から離れた地域に小川村および小川の庄のファンが増えていることを感じました。日常の生活に震災の影響が今も残るなか、非日常のイベントであるお祭りにより、皆さんが和気あいあいと過ごされている姿、笑いが溢れる喫茶スペースを見ることができて非常に嬉しい思いでした。また、この裏側には準備や片付けの膨大な作業があり、地域の方々が萬燈祭の成功を願って、一心に取り組まれる姿には頭の下がる思いでした。それに加え、我々に、温かいもてなしやふるまいをしてくださった志賀町の皆さまに感謝申し上げます。(亀田 望)



とも交流を深め、現地に着いた途端、燈籠がズラリズラリ、これだけで圧巻でした。さぞかし夜祭りはきれいだろうなあと想像させます(実際すごかった)。富来防災センターや今までの活動でお世話になった方々にお会いできて、これも気持ちが和み、応援できて良かったと、心がスッとしました。あの笑顔、何げない会話、僕はこれからも大切にしていきます。ますます活動に力が入ります。!(^^)!(権田公隆)



▶ 中西さん(左から2人目)のバイタリティとユーモアには誰も敵わない。恐れ入ります。

1 年365日。そのたった1日が祭礼の日。9月16日は台風が来ることもある。雨降ることも、晴れることもある。それがわからないのに、どうして何日も前からお祭りの準備をするのか?

私は晴れると言い切ります。当日朝まで雨が降っていても必ず夜には月が出ます。それは晴れを見て無心に準備実行するからです。多ければ多いほど力は増します。今年は小川村の人たちが大きな力となりました。力の結集こそがこの日の月明り。月明りこそ「した(行った)」証し。「すればよかった」は「しなかった」に等しく、雨を呼びます。(中西光路)

雨上がり 水面の月と 空の月
小川の月も 今日この月
心ひとつに吹くは神風(祖先)



ご支援いただいた皆様

○ご寄付（順不同）

深田勲・洋子様 飯塚敬一様 小林加珠様
水上枢様 稲葉利郎様 宮尾祥一様
534 さんきょ市関係者一同様
能登町宇出津の皆様 輪島市道下仮設住宅の皆様
匿名の皆様

○物資などのご提供（順不同）

高府貝印石油様 小林若志様 和田保文様
川又俊夫様 水上紀代子様 清水利保様
松本二千雄様 下蘭和秀様 松本博子様
水上弘栄様 山口カーラ様 折音企画様
F様 N様 チームにせほうず様
匿名の皆様

○ご協力（順不同）

小川の庄様 食事処味菜様
小川スポーツふれあいクラブ様
小川村社会福祉協議会様 小川村公民館様
小川村役場様 チームにせほうず様

ありがとうございます。

みなさまのあったかい気持ちをあったかいテント喫茶として被災地へお届けしました。

○第9陣（第6～7回テント喫茶 OGAWA）参加者

池田政勝 川又啓一 酒井亮平 酒井若菜 林由莉
権田公隆 丸田勉 太田小晴（3年生）
酒井咲太郎（2年生） 山口カーラ（16日のみ現地）
現地サポート チームにせほうず（中西光路 坂尻寿彦）
宿泊場所：志賀町上熊野公民館

“信州・小川村あったかおやきプロジェクト2024”は、温かいおやきで能登半島地震の被災地を応援しようと1月10日に立ち上がった、住民、企業、村行政が三位一体となり取り組むプロジェクトです。阪神淡路大震災や東日本大震災でおやきを提供してきたつなかりを引き継ぐものです。

発行：信州・小川村あったかおやきプロジェクト2024事務局
住所 長野県上水内郡小川村大字高府 2876 小川の庄内
電話 026-269-3760
E-mail attakaoyaki@gmail.com

あったかおやき通信

vol. 9



第9陣は1泊2日で能登町と輪島市の仮設住宅に行きました。小学生2名も参加してくれて、一生懸命お手伝いしてくれました。写真は輪島市門前町道下の仮設住宅集会所で、和太鼓のリズムで肩たたきをしている、太田小晴さんと酒井咲太郎くんです。

第9陣（第6～7回テント喫茶 OGAWA）経過

【経過】

11月13日（水）
18:00 参加スタッフ打合せ バスステイ高府
11月15日（金）
14:00 資材準備
15:00 トラック荷積み
11月16日（土）
5:00 小川の庄 出発
11:00 能登町宇出津仮設住宅着、準備
11:45 テント喫茶開店
途中昼食 松茸おむすび
14:00 喫茶閉店
15:00 出発
15:30 珠洲市宝湯 りんご差し入れ
17:40 志賀町長田着
18:00 長田萬燈会月祭り 拝礼
懇親会 商工観光課長ほか
（居酒屋中西サティアン）
23:00 就寝
11月17日（日）
7:00 起床 朝食
8:30 出発
9:30 輪島市門前町道下仮設住宅着、準備
11:00 雨のため集会所の中に喫茶開店
途中昼食 栗おこわ
14:00 喫茶閉店
15:00 出発
22:30 小川の庄着 荷下ろし

【喫茶メニュー（提供物）】

食べ物（能登町）おやき、りんご、抹茶スイーツ、やきとり、焼きフランク
（輪島市）おやき、りんご、いもだこ、白玉しるこ、栗おこわ
飲み物（能登町）コーヒー、りんごジュース、抹茶ラテ、綿あめ
（輪島市）コーヒー、りんごジュース、コーヒーラテ
出し物（能登町）子供の太鼓肩たたき、カラオケ

【訪問先】

①能登町字出津仮設住宅(藤波運動公園)

鳳珠郡能登町字藤波 23-1-1 100 世帯
キッズ見守りハウス子ども食堂参加
喫茶開店 おやき、りんご、綿あめ他

②志賀町長田万灯会月祭り参加交流

③輪島市門前町道下仮設住宅

輪島市門前町道下 2-49-1 300 世帯
喫茶開店 おやき、りんご他

初

めて参加させていただきました。今回は少数精鋭と聞き、役に立てるか不安でしたが、2日間とも多くの方にお越しいただき、来られた皆さんが笑顔でお話してくれたことに安心しました。あまり落ち着いてお話しすることはできませんでしたが、2日目後半は少し喫茶らしくおもてなしができたかなと思います。カラオケを歌ってくれたお父さんや座ってお話してくださったお母さんたちの笑顔がとても嬉しかったです。

現地の方々やあったかおやきプロジェクトのベテランの皆さんに助けていただき、ありがとうございます。現地に行かなければ分からない空気を体感させていただき、お手伝いするつもりでしたが逆に元気をいただきました。これからも活動のお手伝いをさせていただければと思います。(林 由莉)

▶ 小川村のおいしいりんご。たくさんのおやき、りんごは嬉しいとともに被災者の手へ。



楽

しかったなあ。というのが今回息子達と参加させて頂く中で感じた正直な感想です。被災され、未だ仮設住宅に暮らす方々の胸中は私なんかでは計り知れないものです。

だけれども、現地で暮らす皆様の交わす会話や表情にどこか日常にある安心感のようなものを感じ、地元の子供達の無邪気に遊ぶ姿なども拝見することもでき、こうして今を素直に楽しむ、という経験や体験の積み重ねの大切さを学ばせて頂きました。

現地でお会い出来た皆様、中西さん、丸田さん、権田社長をはじめ共に2日間過ごして下さった村の皆様、心からの感謝を込めて。

ありがとうございます。

(酒井亮平)



▼ 旬のりんごに負けないとびきりの笑顔

▼ 輪島では雨天にもかかわらず大勢の皆さんにお越しいただいた。



▼ 万灯会月祭りでは、思わず太鼓の交流も。



酒

井咲太郎くん(小川小学校2年)が感想を絵で表現してくれました。



▲ 父・酒井亮平 談「おやきを配るのが楽しかったみたいです」

わ

たしは、のことが、大好きです。毎年キャンプに、行っていました。じしんのあとののはじめての、ボランティアに行って、とても、かわっていました。

はじめて、ボランティアで、かたたたきをしたので、きんちょうしました。

わたしは、こまを、おりがみで、作って、みんなに、あげました。とても、うれしそうで、わたしも、うれしかったです。

また、行きたいです。(太田小晴 小川小学校3年)



◀ 「百聞は一見に如かず」「言うは易く行うは難し」「ここで見聞きし、行ったことは一生の宝物だ。(珠洲市にて)」

北信

長野本社 〒380-8548 長野市南町657
電話 026-236-3130 FAX 026-236-3198

須坂支局 〒388-0076 須坂市南1209-3
サンパレス本館A棟307号室
電話 026-245-0120 FAX 026-248-4893

中野支局 〒383-0025 中野市三好町2-4-41
電話 0269-22-3224 FAX 0269-26-0780

飯山支局 〒389-2253 飯山市南町1114-10
電話 0269-62-2226 FAX 0269-63-3128

千曲支局 〒387-0006 千曲市東1305-4
電話 026-273-0062 FAX 026-273-1134

長野市南町657

刀・永々堂

肥前国佐藤厚忠廣にたて 刀・永々堂
一丁二丁五分 刀身長123mm 60g 刀身番号0001

ケーブルテレビ コミュニティFM

これが
おススメ!

FMぜんこうじ 月～金曜11:30～後2:00

ランチタイムをこーに。その日に役立つ
身近な生活情報や心地よい音楽をお届けする生
ワイド 番
組。後0:55
～マリア子
ども園ハッ
ピーキッズ
カフェのコ
ーナーに
は、安藤誠先生が監修。園のキッズたちのお話
や子育てのポイントなど、毎週にぴったりの常
春花ソングも。



は、安藤誠先生が監修。園のキッズたちのお話
や子育てのポイントなど、毎週にぴったりの常
春花ソングも。

信濃新聞 北信版

(1) NC長野11ch 平日後6:30、9:30(他)
市内の児童の学校生活を紹介します。6月30
日までは県内11小学校です。長野県の形をした中
心のピクト
ーが人気
な5年生
が班長で
自分の世界
を表現。一
切をみま



音楽に合わせて歌を披露するメンバー



子どもたちに手話を教える山口さん(右)

小川のぬくもり 能登に輪 村内プロジェクト 被災地で「喫茶」



おやきを頬張る志賀町の子ども

能登半島は、震災直後の被災地。小川のぬくもり、能登に輪。村内プロジェクト。被災地で「喫茶」。

歌や手芸で交流 おやきの提供も

能登半島は、震災直後の被災地。小川のぬくもり、能登に輪。村内プロジェクト。被災地で「喫茶」。

能登半島は、震災直後の被災地。小川のぬくもり、能登に輪。村内プロジェクト。被災地で「喫茶」。



ゲイをめぐりながら被災地の住民

GWのAを企画した

村を盛り上げるイベント

あったかおやき新聞

発行：信州・小川村
 あったかおやきプロジェクト2024事務局
 住所：長野県上水内郡小川村大字高野 2876
 小川村の管内
 電話：026-269-3760
 E-mail: attakaoysaki@gmail.com

令和6年1月1日、元旦。能登半島を地震が襲いました。

「信州・小川村あったかおやきプロジェクト2024」は、温かいおやきで能登半島地震の被災地を応援しようと1月10日に立ち上がった、住民、企業、村行政が三位一体となり取り組むプロジェクトです。阪神淡路大震災や東日本大震災でおやきを提供してきたつながりを引き継ぐものです。

発足後多くの方からご支援をいただき、大変ありがとうございます。ここで活動を報告させていただきます。この新聞はあったかおやき通信 vol.8~9をまとめたものです。

第8陣(第5回テント喫茶 OGAWA) 9月16日(月・祝)~17日(火)

【訪問先】

石川県志賀町長田 見竹神社 萬燈会

【喫茶メニュー(提供物)】

食べ物(おやき、オーストラリアソフトクッキー、りんご)、飲み物(珈琲、りんごジュース、シソジュース、かき氷)、出し物(酒井若菜さんの歌)

■私にとっては初の能登半島訪問(&初の本プロジェクト参加)でした。志賀町の見竹神社萬燈祭のご支援は、「萬燈」の文字の通り、神社・周辺一帯に灯籠が並べられ、夜には幻想的な風景とボランティア有志によるイベント(踊りや歌唱等)を楽しむことができました。テント喫茶 OGAWA を訪れる方々の中には「前回、防災センターでお世話になった」「またおやきを食べられて嬉しい」等の声があり、本プロジェクトがこれまでの7回の活動を通して地域の方々に認知されていること、また小川村から離れた地域に小川村および小川の庄のファンが増えていることを感じました。日常の生活に震災の影響が今も残るなか、非日常のイベントであるお祭りにより、皆さんが和気あいあいと過ごされている姿、笑いが溢れる喫茶スペースを見ることができて非常に嬉しい思いでした。また、この裏側には準備や片付けの膨大な作業があり、地域の方々が萬燈祭の成功を願って、一心に取り組まれる姿には頭の下がる思いでした。それに加え、我々に、温かきもてなしやふるまいをしてくださった志賀町の皆さまに感謝申し上げます。(亀田 望)



萬燈祭は、能登半島を地震が襲った翌年の正月に始まり、恒例行事として続けられてきた。温かいおやきプロジェクトをサポーターとして、くわいている中西光路さんである。



▲ お祭りあって、出店のテントの中も人で賑わい活気と交流が生まれます。



■ 萬燈の一つ「ころがし」(昔の田植え前の道具)に陣子紙を貼ったものが神社境内や川べり、集落に続く道にも並べられ、3500本のろうそくを灯します。神社の境内の斜面には、2000個のブリキの器にキャンドルを灯し、富士山と五重の塔と「祈り」の文字が表現されており、日没後、ろうそくが灯された時には人生初めての光景に感激し「すごい!すごい!」の連発でした。広場はコンサート、石川県の民謡、佐渡おけさの踊り等々、皆で楽しませてくれました。

私も7回活動に参加させていただきましたが、味噌汁担当だった為、被災者の方ともほとんどお話しできずに終わっていましたが、今回は違いました。石川県にはおやきの文化がなく皆さんが美味しい、おいしいを連発。リクエストも含めて皆さんの笑顔に触れ、普段仕事をしているこちらでも嬉しくなりやる気が出てきました。今回行った地域は被害が少なかったのか、皆さんがお祭りを盛り上げようと一生懸命の姿が頼もしかったです。

翌日は片づけの手伝いを約3時間。暑い中本当に大変でしたが、満足のいく活動でした。おやきプロジェクトは回を重ねて行く度々にメンバーが代わりますが、何とチームワークのよいことが、自分自身に問いかけてみましたが、やはりボランティア精神が一番。その上仲良く楽しくできたのも役員さんのおかげと深く感謝いたします。チームのメンバーは代わっても目的は1つ。素晴らしい行動に感動して帰ってきました。(荻津寿津子)

■ 祝日と平日にわたる日程にもかかわらず、大勢が参加出来て良かった。これも現地で毎回私たちのボランティア活動を支援いただいている「チームにせぼうず」との交流活動のおかげだ。朝7時に積み込みを終え、休憩しながらスタッフ一同も交流を深め、現地に着いた途端、燈籠がズラズラリ、これだけで圧巻でした。さぞかし夜祭りはきれいだろうなあと想像させます(実際すごかった)。富来防災センターや今までの活動でお世話になった方々にお会いできて、これも気持ちの和み、応援できて良かったと、心がスッとしました。あの笑顔、何げない会話、僕はこれからも大切にしていきたい。ますます活動に力が入ります。!(C) (横田公隆)

■ 年 365 日。そのたった1日が祭礼の日。9月16日は台風が来ることもある。雨降ることも、晴れることもある。それがわからないのに、どうして何日も前からお祭りの準備をするのか?

私は晴れると言い切ります。当日朝まで雨が降っていても必ず夜には月が出ます。それは晴れを見て無心に準備実行するからです。多ければ多いほど力は増します。今年是小川村の人たちが大きな力となりました。力の結集こそがこの日の月明り。月明りこそ「した(行った)」証し。「すればよかった」は「しなかった」に等しく、雨を呼びます。(中西光路)

雨上がり 水面の月と 空の月
 小川の月も 今日のこの月
 心ひとつに吹くは神風(祖先)



志賀町からの恩返し・・・交流始まる

能登・志賀町のみなさんが「おまつりスペシャル in OGAWA」に参加 10月20日(日)

まつり実行委員会の提案を受けて、あったかおやきプロジェクトは、志賀町の現地応援スタッフ「にせぼうず」こと中西光路さんと商工観光課に祭り参加を声掛けしたところ、快諾していただきました。応援の気持ちでの参加呼びかけでしたが、中西さんは「ツルの恩返しをしたい」と「振る舞い」を希望。当日は海鮮おかゆ、焼き秋刀魚、いもだこ等を無料提供していただきました。ツルとは鶴ではなく自分の娘のこと、秋刀魚焼きには長い行列ができました。中西さんは仲間の民生委員3名を誘っての参加、商工観光課からは課長以下3名が駆けつけてくれました。まつり実行委員会は積極的に義援金のカンパを募って、後に志賀町に贈りました。



▲秋刀魚焼きには長い行列



▲積極的に募金回りをしてくれたお二人に感謝!



▲志賀町の現地応援スタッフ



▲あったかおやきプロジェクトのスタッフもお手伝い

第9陣(第6～7回テント喫茶 OGAWA) 11月16日(土)～17日(日)

【訪問先】

- ①能登町宇津波仮設住宅(藤波運動公園) 鳳珠郡能登町宇津波 23-1-1 100 世帯
キッズ見守りハウス子ども食堂参加、喫茶開店 おやき、りんご、綿あめ他
②志賀町長田万灯会月祭り参加交流
③輪島市門前町道下仮設住宅 輪島市門前町道下 2-49-1 300 世帯
喫茶開店 おやき、りんご他

【喫茶メニュー(提供物)】

- 食べ物(能登町) おやき、りんご、抹茶スイーツ、やきとり、焼きフランク
(輪島市) おやき、りんご、いもだこ、白玉しるこ、栗おこわ
飲み物(能登町) コーヒー、りんごジュース、抹茶ラテ、綿あめ
(輪島市) コーヒー、りんごジュース、コーヒータテ
出し物(能登町) 子供の太鼓習ったき、カラオケ

酒井秋太郎くん(今年小学校2年生)が感想を述べています
「おやきを配るのが楽しかったです」



▶初大鼓のリズムで喜ぶ子どもたちと酒井秋太郎くん



▶小川町の「おにいちゃん」は思いとこに被災者の手へ

■初めて参加させていただきました。今回は少数精鋭と聞き、役に立てるか不安でしたが、2日間とも多くの方にお越しいただき、来られた皆さんが笑顔でお話してくれたことに安心しました。あまり落ち着いてお話しすることはできませんでしたが、2日日後半は少し喫茶らしくおもてなしができたかなと思います。カラオケを歌ってくれたお父さんや座ってお話してくださったお母さんたちの笑顔がとても嬉しかったです。

現地の方々やあったかおやきプロジェクトのベテランの皆さんに助けていただき、ありがとうございます。現地に行かなければ分からない空気を体感させていただき、お手伝いするつもりでしたが逆に元気をいただきました。これからも活動のお手伝いをさせていただければと思います。(林 由莉)

■楽しかったな。というのが今回息子達と参加させて頂く中で感じた正直な感想です。被災され、未だ仮設住宅に暮らす方々の胸中は私なんかでは計り知れないものです。

けれども、現地で暮らす皆様の交わす会話や表情にどこか日常にある安心感のようなものを感じ、地元の子供達の無邪気に遊ぶ姿なども拝見することもでき、こうして今を素直に楽しむ、という経験や体験の積み重ねの大切さを学ばせて頂きました。

現地でお会い出来た皆様、中西さん、丸田さん、榎田社長をはじめ共に2日間過ごして下さった材の皆様、心からの感謝を込めて。ありがとうございます。(酒井亮平)

■わたしは、のどが、大好きです。毎年キャンプに、行っていました。じしんのあとの初めての、ボランティアに行って、とても、かわっていました。はじめて、ボランティアで、かたたきをしたので、さんちゅうしました。わたしは、こまを、おりがみで、作って、みんなに、あげました。とても、うれしそうで、わたしも、うれしかったです。また、行きたいです。(太田小晴 小川小学校3年)



▲万灯会月祭りでは、思わず太鼓の演奏も

▲「訪問先」は「被災者」。「被災者」は「被災者」。「被災者」は「被災者」。

(様式第3号)

令和6年能登半島地震災害支援基金 ながの寄付助成(第2期助成)

実績報告書

2025年 6月 30日

公益財団法人長野県みらい基金 理事長 様

所在地 〒381-0083
長野市西三才 2184-1

団体名 NPO 法人ホットラインながの

代表者職氏名 理事長 井出光人



「令和6年能登半島地震災害支援基金」の助成事業が完了したため、下記のとおり報告します。

記

1 事業名

のと居住支援“カタツムリの家”推進事業

2 助成対象事業の実施期間

2024年 8月 9日 ~ 2025年 5月 31日

3 実施した取り組み

(この事業で具体的にに行った災害支援、誰に・いつ・どこで・何をどのように行ったのか)

能登への訪問予定は、度重なる災害のため実行できず、製造元との合意による別紙の様なPR用のチラシ3種作成に専念した。

今春、理事長(井出)が、石川県庁を訪れ、能登の被災状況を聞き取り調査し、協力依頼を行った。

新たに4月の新聞紙上で、コンテナハウスのことを知り、スタッフ5人が2回、長野市戸隠の(株)塚田工務店を訪問し、別紙の様な設計図面も完成し、今後の取引協力の約束が得られた。

(様式第3号)

4 達成できた状態・成果

(この事業で具体的に実現できた状態、被災地や被災者の方はどのような助けを得られたのか)

輪島方面の NPO 等とは、連絡電話等を始めたが、この9月には訪問し、具体的な打合せを行うことになっている。

三才駅近くにモデルハウスを設置出来れば、被災者をお招きすることができ、現地出張所をオープン出来れば、被災者の懐にも飛び込めるし、被災者と伴走しながらの、休眠預金活用居住支援事業の申請研究をしているところです。

8月18日の全国ネット講習会に参加しましたが、苦戦挑戦苦戦の覚悟です。

5 本基金の寄付者へのご報告(メッセージ)

能登の被災された皆さんの居住支援は、今までの私たち NPO が経験したことが無いような、全く見通しが立たない状況となっております。

一にコンテナハウス、二にトレーラーハウスを提供することにより、能登に行政支援助成金程度(一人暮らし全壊625万円限度)で可能な、数年後移動処分もできる、安価な“新・居住革命”をもたらしたいと考えており、3～5年程度の関係者の心からなるご支援を切望してやみません。

6 事業の実施状況を示す書類(別添)

- (1) 収支報告書(様式第3-1号)
- (2) 収支報告書の証拠書類(領収書原本等)
- (3) 活動の実施風景写真(外部公開可能なもの)
- (4) その他参考資料(事業の経過や成果を証するもの)

私たちNPOの活動の一端です。

長野市西三才2184-1
NPO法人ホットラインながの
理事長 井出 光人

A

<これまでの当NPOの主な貢献活動内容>

1. 阪神淡路大震災に於けるボランティア活動1年間、みなしご子供たち雪原招待。
2. 平成 16 年 4 月に NPO 法人登記、直後はナルクながの設立に、全役員が傾注。
3. 平成 18 年中越地震被災者へ励まし絵手紙、岡谷・能登水害地へ古タオル送付。
4. 平成 19 年(独)福祉医療機構より「高齢者障がい者の社会貢献と就労促進に関する事業により、三才裏山に元気印「カブトムシの森」づくり開始(10年)。
5. 平成 22 年長野県市まちづくり支援事業、就労創出事業で、遊歩道 220m 開通。
6. 地域支え合い事業と、東日本震災の栄村被災者支援活動開始<以後2年間>。
7. 平成 24 年栄村サポート事業継続要請、仮設住宅ひとり暮らし中心の支援活動。
8. 平成 26 年長野県白馬村地震被災者の仮設住宅にて <2年間>励まし支援活動。
9. 平成 28 年定款変更(子どもの健全育成事業)により、三世代ごいっしょ食堂開始。
10. 平成30 年長野市空き家計画審議委員として、10年計画作成に参加、諸提案。
11. 改定住宅セーフティネット法の居住支援法人協議会への申請、空き家の活用。
12. 令和元年台風 19 号千曲川決壊、三才駅待合室に義援鍋を置かしてもらう等
長沼地区被災者救援活動を展開、すめーる友の会現地本部も設置し支援中。
13. 令和6年能登半島地震向・NPOのと居住支援センター創設・☎0120-929-123
13. 令和6年長野市・JA等の助成により、第3の居場所・^{SDGs}学生サロン開始。



NPO 法人 ホットラインながの 定款

第1章 総則

(名称)

第1条 この法人は、NPO 法人ホットラインながの という。

(事務所)

第2条 この法人は、事務所を長野県長野市に置く。

第2章 目的及び事業

(目的)

第3条 この法人は、高齢者や子供達、そして要介護者及びその親族に対して、生活上の種々の相談に応じ、情報提供ならびに支援事業を行い、緊急時や災害時における救援等、高齢者や障害者にとって、安心して安全なホットなまちづくりに努め、地域社会に寄与することを目的とする。

(特定非営利活動の種類)

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため次に掲げる種類の特定非営利活動を行う。

- (1) 保健、医療又は福祉の増進を図る活動
- (2) まちづくりの推進を図る活動
- (3) 観光の振興を図る活動
- (4) 農山漁村又は中山間地域の振興を図る活動
- (5) 学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動
- (6) 環境の保全を図る活動
- (7) 災害救援活動
- (8) 子どもの健全育成を図る活動
- (9) 情報化社会の発展を図る活動
- (10) 職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動
- (11) 消費者の保護を図る活動

(事業)

第5条 この法人は、第3条の目的を達成するため、次の特定非営利活動に係る事業を行う。

- ① 生活支援・就労創出事業<高齢者障がい者>
(ゴミ出し・除雪・庭木の手入・消毒・生活支援及び代行・福祉相談・便利屋普及等)
- ② 里山整備・山菜農園事業
(里山整備及び遊歩道づくり・カブトムシの森・山菜農園・自然シイタケの栽培等)
- ③ お楽しみ企画・文化事業
(お茶のみ IT サロン・カルチャー教室・うたう会・博物館・ミュージアム等の運営)
- ④ コミュニティハウス等事業
(リビング協働型のコミュニティハウス運営・福祉住環境リフォームの支援相談等)
- ⑤ 情報誌の発行(新聞折込宣伝紙のスペース活用を含む)
- ⑥ 障がい者福祉サービスを行う事業
- ⑦ 介護保険法に基づく介護予防通所介護および第1号通所事業
- ⑧ 介護保険法に基づく介護予防訪問介護および第1号訪問事業
- ⑨ その他、第3条の目的を達成するために必要な事業

◎二人暮らしに最適 <20~30年> 970~1020万円

グランデ 〈住居タイプ〉

これなら行ける、これに決めた！

グランデ (grandee) の語源

中世から近世までの間に存在した、貴族で爵位とは別に国王の前での一部の義務を免除される特権を持つ者。

揺れに強い、移住可能な

“カタツムリ”



グランデ11m・標準仕様

室内には広い空間を作りました。
自由に仕切りを作る事により、
プライベートを守れるような設計としております。



「グランデの理由」
天井の高さによるゆとりの居住空間。
2段ベッドも設置可能です。
カーテンなどで自由に仕切りを作る
ことで、プライベートを守れるように
設計しております。



リビング(標準仕様)



寝室(標準仕様)

ベッドルーム
間接照明



天井の高さによる、ゆとりの居住空間
2段ベッドも設置可能です。



システムキッチン
(標準仕様)



ユニットバス(共通)
(約7.5坪)



水洗トイレ
温水洗浄便座付
(オプション)



洗面台
(標準仕様)

古木*仕様(オプション)のぬくもりを活かした心地よい空間。



*古木は古木仕様です。
標準仕様も取り扱いは変わりません。



和紙調ブラインドにより
プライバシーが守れます。

=JR 三才駅前の NPO ホットライン本部です=



受付：NPO のと居住支援センター ☎0120-929-123
紹介：NPO 法人ホットラインながの 理事長 井出光人

CUMBERLAND JAPAN

“グランデの語源”

グランデ(grandee)は、中世から近世までの間に存在した貴族で爵位とは別に、国王の前での一部の義務を免除される特権を持つ者。自動車として軽量化等による機動性、建築として建築基準に準拠する事による宿泊所とした安心安全、更には災害発生時に1名~8名の宿泊を想定した多機能性を持つ特殊性から命名しました。

活用方法

全国に2000台を超える納品実績と被災地の仮設住宅として納品してきた実績を活かし、開発いたしました。リゾート、民泊、離れ、移住交流用お試し住宅、災害時の高速道路輸送や復興住宅として設置する為の機能を装備。高気密・高断熱を実現、バリアフリー・床暖房等の装備も可能です。

グランデフロアプラン(10m~12mまで対応可)



グランデ 標準装備

- 屋根材:
・ガルバリウム鋼板(積雪対応)
- 外壁材:
・樹脂サイディング
- 最高級サッシ・ガラス:
・ペアガラス・樹脂サッシ
- 室内材:
・クロス仕上げ
- 床仕上げ:
・高耐水フロア

リビングルーム & 寒冷地仕様

- リビングルーム:
・LED大型シーリングライト
- ・床:高耐水フロア
- ・給気口
- ・パティオドア

- キッチン:
・システムキッチン O/Hキャビネット
(一槽シンク・IHコンロ標準)
- ・レンジフード
- 設備:
・ポスト付玄関ドア
- ・40AMP日本製ブレーカー
- ・ポーチライト
- ・室内・外部コンセント・TVアウトレット

- ベッドルーム:
・床:高耐水フロア
- ・読書灯
- ・間接照明

- バスルーム:
・洗い場付きユニットバス
- ・洗濯機スペース
- ・水洗トイレ/温水水洗
(暖房便座付)
- ・化粧用キャビネット

オプション装備

- 外壁材:
・ファイバーセメントサイディング
- エクステリア:
・オーニング
- ・デッキ
- ・階段

- インテリア:
・古木仕様
(フローリング他一式)

- 家具一式:
・ダイニングセット(4人掛け)
- ・シングルベッド(収納付)2台
- ・冷蔵庫(120L)
- ・ソファベッド
- ・2重カーテン(遮光・レース)

- 設備:
・一体型ユニットバス
- ・省エネ電気式床暖房
- ・エアコン
- ・キッチン ガスコンロ

- ・TELアウトレット
- ・コンセント
- ・温水洗浄便座
- ・浴室バリアフリー

※間取りの変更やその他の構造変更は別途となります。
※設備の変更、特別装備の取り付けの場合別途となります。

【グランデと言う特別な理由】

安心・安全、トータルバランスを追求しお客様の自由な使い方を優先しました。

リビングエリア

シーリングライトに、お洒落なブラケットライトで明るさと雰囲気満点。お掃除がしやすく広いリビングは、家族がゆったり過ごす事ができます。180cm幅のキッチンを採用、3口のIHコンロに魚焼きグリルも付いています。

サニタリー

トイレは暖房便座を標準に、温水洗浄便座(オプション)もご用意。天井も高く広々とした設計です。歯磨きをしながら洗濯機をまわして片付け、収納等も置ける水廻りを実現。洗い場付バスルームは、床との段差が無いバリアフリーのオプションもご用意しています。

オプション

「古木仕様」は室内の梁等、見える範囲の多くを古民家(戦前の住宅)から再活用した、質の良い木を加工し施工しております。内装はトータルコーディネートとなります。畳や囲炉裏仕上げもご用意いたします。(オプション)

品質の管理と安全な納品まで

弊社トレーラーハウスはPL保険(製造物責任保険)完全対応。さらに本体・住設機器は1年間の保障。製造、輸送、設置、メンテナンスまで、迅速な体制を整えております。ご予算や仕様など、ご要望に合わせたフリープランも承っております。代替の部品の下取り、買取もご相談ください。

古木のぬくもりを活かした心地よい空間。

日本人の暮らしの理想である和のテイストを、コンクリートやタイルを取り入れ、お洒落から子供までみんながくつろげる暮らしの心地よい空間に仕上げました。

省エネデザイン/山手舎

山手舎は古民家にもたらし古民家建築から古木の活用や知恵、それらを使った建築の知恵、無工事で済ませ、経費を抑えながら「古木のプロジェクト」を実現しています。古民家(古民家)に300坪以上の古民家を100坪以上の古民家を保有しています。



山手舎 株式会社
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
TEL: 03-5555-1111 FAX: 03-5555-1112
E-MAIL: info@yamateya.co.jp

助成金の対象になり、移動も出来ます。設置は現地調査が必要です。

全国の被災者住宅にも実績。

長野市豊野町浅野 1778 製造工務店



CUMBERLAND JAPAN

経済 信州発



県産材をふんだんに使った「多目的スーパースペース」

木造コンテナハウスの販売強化

ビジネス 交差点

マルセイ塚田工務店

(長野市)

吸湿性や断熱性の良さ強み

「ふたどり着いたら、岬のはずれ」三十年前の阪神淡路大震災の被災者支援活動を源元とする、私たちNPO法人ホットラインなのが、二十年間の生活支援・居住支援・居場所づくりの到達点に、能登の皆さんへの支援活動が選ばれました。どうぞ、よろしく願います。

理事長 井出 光人

こ あ い さ つ



住宅建築のマルセイ塚田工務店(長野市)は、日本古来の技術を生かした木造コンテナハウスの販売を強化している。壁や天井など全面にスギ材を使っており、一般的な軽鋼鉄骨造りに比べ、吸湿性や断熱性に優れるという。コンテナハウスの需要が店舗や事務所、宿泊施設などに広がっており、販

路拡大の好機とみている。同社は1966(昭和41)年創業。木材を積み上げて壁にする正倉院(奈良市)の校倉造りにヒントを得て、内壁と外壁の間にスギの板をはめ込む独自の工法を開発した。2003年に一般住宅「校倉の家」として発売。10年には同じ工法でコンテナハウスを製品化し、「多目的スーパースペース」の商品名で販売している。

同社のコンテナハウスは従来、老後の住まいやペット用の部屋といった自宅の増築用途で求められることが多かった。近年は工期や費用を抑えられ、移動もできる特長が注目されている。コンパクトな平屋住宅の人氣が高まっていることも踏まえ、個人や企業のような需要を取り込みたい考えだ。

販売中のコンテナハウスは広さや仕様が異なる5種類。内部に居間とトイレ、バスルームなどを備えたタイプ(21平方メートル)は、約450万円で販売している。居間と寝室だけの最もシンプルなタイプ(18平方メートル)は約340万円。県産材をふんだんに使った自社敷地内で造り、設置場所までトレーラーで運ぶ。塚田社長は「基本の5種類だけでなく、使う人の要望に応じた柔軟な設計ができる」のが強みとしている。

同社は住宅建築やリフォーム、公共工事などを手がけ、24年12月期の売上高は8800万円。コンテナハウスの販売目標は「年間10棟」(塚田社長)としている。

令和6年能登半島地震災害支援基金 ながの寄付助成(第2期助成)

実績報告書

2025年 3 月 1日

公益財団法人長野県みらい基金 理事長 様

所在地 〒387-0011
長野県千曲市杭瀬78-6

団体名 NPO 法人元気お届け隊

代表者職氏名 長浦 とし子



「令和6年能登半島地震災害支援基金」の助成事業が完了したため、下記のとおり報告します。

記

1 事業名

能登半島へ元気をお届け！

2 助成対象事業の実施期間

R7 年 2 月 21 日 ～ R7 年 2 月 22 日

3 実施した取り組み

(この事業で具体的に行った災害支援、誰に・いつ・どこで・何をどのように行ったのか)

1. 石川県七尾市ボランティアセンター内にて、災害支援をしているボランティアと地元の方へ、ハンドエステの施術で元気をお届け
2. 公費解体の期日が迫っている被災家屋内の荷物の運び出し、新居への運び込み、雪かきの支援

(様式第3号)

4 達成できた状態・成果

(この事業で具体的に実現できた状態、被災地や被災者の方はどのような助けを得られたのか)

- 1, ハンドエステにより、疲れの軽減とストレス緩和、元気のお届けが出来た。
長期ボランティアの方から、疲れが取れ作業が頑張れそうとの感想をいただいた。
心が元気になった、嬉しかった、他の感想や喜びの声をもらった。
身体のケアのほかに、心のケアにも繋げることができた。
- 2, 被災家屋の作業では、女性の視点で丁寧に片付けをしてもらえたと大変喜ばれた。
ご高齢の世帯で、大きな荷物、棚や箆笥の運び出しの力仕事に感謝の言葉をいただいた。
日常会話に心掛けた声掛けをして、傾聴支援で心のケアにもつなげられた。
解体家屋から、全ての荷物の運び出しができた。

備考

ミツロウクリーム作りを予定していたが、公費解体が急に決まり、人手が足りないことから片付け作業に変更した。

5 本基金の寄付者へのご報告（メッセージ）

ご寄付いただいたおかげで、勇気をもち被災地へ支援に行くことができました。
当団体では、東日本大震災で被災した子供たちへの支援や長野県台風19号被災支援をしてきました。九州や熊本の支援活動もしたいところでしたが、遠く、時間とお金がかかることから断念した経緯があり、能登半島の支援は、是非ともしたいと思っていたところ、ご寄付いただけたことにより、自己負担額が最小限に抑えられたため、能登半島支援に参加させていただくことができました。
ご寄付をされた方で、現地に行くことが困難な方の思いも一緒にお届けすることができたことを嬉しく思います。
ご寄付をしていただき、ありがとうございます。

6 事業の実施状況を示す書類（別添）

- (1) 収支報告書（様式第3-1号）
- (2) 収支報告書の証拠書類（領収書原本等）
- (3) 活動の実施風景写真（外部公開可能なもの）
- (4) その他参考資料（事業の経過や成果を証するもの）



令和6年能登半島地震災害支援基金 ながの寄付助成(第2期助成)

実績報告書

2024年10月17日

公益財団法人長野県みらい基金 理事長 様

所在地

〒385-0051

長野県佐久市中込2976-4

団体名

佐久商工会議所女性会

代表者職氏名 中村 直子



「令和6年能登半島地震災害支援基金」の助成事業が完了したため、下記のとおり報告します。

記

1 事業名

ぞっこん! さく市での出張「輪島朝市」事業

2 助成対象事業の実施期間

令和6年10月5日(土)

～

令和6年10月6日(日)

3 実施した取り組み

(この事業で具体的に行った災害支援、誰に・いつ・どこで・何をどのように行ったのか)

長野県佐久市の駒場公園、佐久創造館にて10月5日(土)・6日(日)「ぞっこん! さく市」を開催し、石川県輪島市において1200年続く伝統を受け継ぐ「輪島朝市」を出張開催した。

当日は、「輪島朝市を応援する会」から、2家族4名(坂さん親子、二木さん夫婦)にお越しいただき、海産物・干物、輪島塗(漆器)などの工芸品の販売をお手伝いした。

売上げは全額寄付し、旅費、宿泊費、出展費用(出展料、保管用冷凍庫・冷蔵庫等)も無料で準備・提供をした。

また、両日「能登半島地震」「能登豪雨災害」支援の募金を実施した。

(様式第3号)

4 達成できた状態・成果

(この事業で具体的に実現できた状態、被災地や被災者の方はどのような助けを得られたのか)

海産物・干物(20アイテム、2,530商品数)は完売(約140万円)することができ金額寄付することができた。

輪島塗(漆器)は約50万円の販売につながった。

両日「能登半島地震」「能登豪雨災害」支援の募金を募り、259,429円を集めることができた。「輪島朝市を応援する会」に寄付をする。(予定)

被災地の伝統工芸(輪島塗)や水産業、水産加工業者、販売業者の支援につながった。

被災者の方からは「(二木さん夫婦)海産物・干物の販売をやめようと思っていたが、皆さんの支援でもう一度頑張ろうと思います」「(坂さん親子)出張に出て初めて大きな売上をあげることができた。後継者もやる気になってくれたら。」と産業や生活再建の一助となった。

参考動画 <https://youtu.be/Z9jN8a9Za0g?si=RHmMAAOUMReEn2FF>

取材を受けた先

- ・信濃毎日新聞(掲載日10/4(金)・6(日))
- ・TSB テレビ信州(10/7(月))
- ・ABN長野朝日放送(10/5(土))
- ・NBS長野放送(10/7(月))
- ・読売新聞 イベント情報(10/4(金)掲載)
- ・SBCラジオ「あさまる」(9/30(月)生放送)
- ・佐久市民新聞
- ・佐久CATV

5 本基金の寄付者へのご報告(メッセージ)

・基金は先にお振込みをいただけるので、「能登半島地震災害支援」活動を進めるために大変有効でした。

・各種メディアへの掲載や報道の際に、貴基金の助成を受けて実施していることを、しっかりお伝えすることができなかったため、次回以降は徹底して行っていきたい。

・被災地支援は息の長い支援活動になるので、引き続き行ってもらえたら。

6 事業の実施状況を示す書類(別添)

(1) 収支報告書(様式第3-1号)

(2) 収支報告書の証拠書類(領収書原本等)

(3) 活動の実施風景写真(外部公開可能なもの)

(4) その他参考資料(事業の経過や成果を証するもの)



令和6年能登半島地震災害支援基金 ながの寄付助成(第2期助成)
実績報告書

2025年3月18日

公益財団法人長野県みらい基金 理事長 様

所在地 〒382-0074
長野県須坂市大字須坂 476-1
団体名 須坂市社会福祉協議会
代表者職氏名 会長 豊田清寧



「令和6年能登半島地震災害支援基金」の助成事業が完了したため、下記のとおり報告します。

記

1 事業名

令和6年能登半島地震災害支援事業

2 助成対象事業の実施期間

2024年8月9日

～

2025年1月26日

3 実施した取り組み

(この事業で具体的に行った災害支援、誰に・いつ・どこで・何をどのように行ったのか)

8/9～11の3日間、現地で活動を行ってきました。

8/9は、移動日。ハイエース等の大きな車3台で向かいました。

具体的に行った災害支援は下記のとおりです。

8/10は、メンバーを3グループにわけての活動でした。

① Sさん宅の災害ゴミの運び出し(8/10 穴水町) 1グループ

② 能登瓦の移動(8/10 穴水町 倉庫) 1グループ

③ 仮設住宅避難者の皆様が集まるサロンを開催する集会所の草刈り(8/10 穴水町甲地区)
2グループ

④ 現地、郵便局前の倒壊家屋の道にはみ出したところの片づけ(8/10 能登島) 3グループ

⑤ ボラメンバー全員で、二階建て倉庫の片づけ(8/11 能登島鯉目町)

8/11は、半日メンバー全員で活動をしました。(14名)

※10/15～16・10/29～30・2025/1/24～26分の活動については、別添復命書をご覧ください。

(様式第3号)

4 達成できた状態・成果

(この事業で具体的に実現できた状態、被災地や被災者の方はどのような助けを得られたのか)

行かせていただいお宅ごとで依頼主さんと話した内容も違えば、物語も違います。
全部記載したいところですが、そうなると何ページあっても足りないと思いますので、
一つピックアップで報告させていただきます。

8/10の最初に行かせていただいたお宅にて(Sさん宅にて)

現在、諸事情により生活保護受給停止となっているSさん。長年、自宅の床下に大量の物品を
心の問題で、溜め続けていってしまった。現地でSさん宅の支援に入っていたNPOの方の話によ
ると「今回の地震で被害を受けたSさん宅。罹災調査に来た職員は、床下の柱のズレがゴミがあ
りすぎて確認できない。これでは、罹災の状況が把握しきれないため「準半壊」の判定を。

仮設住宅に入るには罹災の条件が「半壊」以上でなければ入れない。準半壊から半壊に上げるに
は、なんとかして、床下のゴミを撤去し、もう一度罹災調査を受けてもらうしかないんだ。」と。
私たちも必死に、NPOの方、Sさんと一緒に床下に長年溜められたSさんの私物を運び出しまし
た。みるみるうちに綺麗になっていく、床下を見たSさんは次第にどんどん笑顔になっていきま
した。口数も増え、いろんな話をしてくださるようになりました

作業のあとNPOの方から言われたのが「あんなSさんは、はじめてみた！あんなに笑うSさんを見
たことがないよ！ボランティアのみんなのおかげです！」との言葉をいただきました。

その言葉をいただけたときは、とても嬉しく思いました。

そして、活動に行かせていただい日から約3か月経過したころ、NPOの方からお聞きしました。

Sさんは、半壊の認定をあのあと受けることが出来、仮設住宅での生活がはじまったとのこと。

Sさんは、「こんな快適な家で、俺、生活してもいいんかやあ。」と笑顔も戻り、現在は元気に生
活しているとのこと。活動に入らせていただき本当によかったと思う瞬間でもありました。

5 本基金の寄付者へのご報告(メッセージ)

令和6年能登半島地震災害支援基金に、寄付していただき、ありがとうございます。

皆さんからの寄付のおかげで、安全かつ全力で、現地で災害復興支援ボランティアをしてく
ることができました。寄付していただいた基金を活用させていただいたことにより、ボラン
ティアのみなさんの自己負担もなく行けたことが、社協としても大変ありがたかったです。

能登半島では、まだ被災を受け困っている人がいるのが現状です。

今後は、冬も終わり春になりあたたかくなってきます。

今まで災害支援活動に入ることが難しかった地域・地区にも入れるようになっていくかと思
います。能登の皆さんは言っています。「能登を忘れないで。」と。

どんな形であれ、現地から依頼がある限りは、継続して活動していきたいと思っております。
ボランティアの皆さんと活動を続けてこれたこと、能登でいろんな感情に触れ、感じてくるこ
とができたこと、ご寄付していただいた皆様のおかげです。

今回は「みらい基金」の助成金を活用させていただき本当にありがとうございました。

6 事業の実施状況を示す書類(別添)

(1) 収支報告書(様式第3-1号)

(2) 収支報告書の証拠書類(領収書原本等)

(3) 活動の実施風景写真(外部公開可能なもの)

(4) その他参考資料(事業の経過や成果を証するもの)

復 命 書

2024年8月20日

社会福祉法人須坂市社会福祉協議会

会長 豊田 清寧 様

職員 助け合い起こし推進係 湯本 健太

須坂市社会福祉協議会主催、チームながでん様協力（財源 社協会計と長野県みらい基金助成金活用）にて、能登島&穴水町で災害ボランティア活動を行うため出張しました。概要は下記のとおりです。

記

1 日 時 2024年8月9日（金）～11日（日）

2 場 所 能登島&穴水町

3 参加人数 16名（車3台：社協生きデイハイエース、日赤車ノア、ボラ佐藤様ノア）

※当初、17名の予定だったが、ボランティア小林正孝さん

南海トラフ（地震）お仕事の関係で急遽欠席。10日朝イチ、ボランティアの

菊地さん親子・息子 菊地龍生様、コロナ陽性反応が出たため、途中離脱。

電車等利用にて、10日午前中には帰宅。

4 行程・活動内容

8月9日

20:30 小布施ハイウェイオアシス 集合

21:00 小布施ハイウェイオアシス 出発



信州中野 IC 乗車→有磯海 SA にて休憩→小杉 IC 降車→小杉 IC 付近のスタンドにて全台給油→
→小杉 IC 付近のスタンド向かいのセブンイレブンにて買い物→能越道 県境 PA にて休憩
→能登島大橋を通り、一同、仮眠宿泊場所へ

2:00 仮眠宿泊場所（能登島半浦町 集会所） 着

能登島半浦町の町会長さんのはからいにより、集会所を開けていただき、一同、仮眠&宿泊をさせていただきました。エアコン、トイレ、洗面所、キッチン完備されており、とても有難く、何不自由ない快適な場所で寝ることができました。スペース的にも十分広かったです。また、外にでると海は目の前で、波の音が聞こえ対岸には和倉温泉の明かり、空には満点の星空、本当に最高の場所でした。地区の盆踊り祭りが近々開催とのことで、外にはヤグラが設置されており、湯本はそこの上で2日間とも寝させていただきました。



8月10日

6:30 起床・朝食

7:30 集会所 出発

2日目（活動1日目）は、14名を3グループ（4人、2人、8人）にわかれて活動！

活動内容は、お手伝いJAPANの山崎さん、NPO法人アドラジャパン小出さんの調整をしていただき活動に入りました。

4人、2人グループは穴水町、甲地区にて活動

8人グループは能登島にて活動

チーム① Sさん宅災害ゴミの運び出し



Sさん（男性）は、奥様とお二人暮らしのご高齢の方。Sさんはもともと職人さんで、大きな工場で仕事をしていましたが、事情により仕事ができなくなってからは、生活保護に。

その後しばらくしてから、ご自身の車を手放せと生活保護担当の行政職員に言われ、揉め、生活保護受給停止に。Sさんのお宅に何度も通い続けるNPOアドラジャパンの小出さんによると「Sさんは長年、家の床下に心の問題でゴミを溜め続けてしまった。今回の地震の被害を受け、仮設住宅に移りたいが仮設住宅に入るには罹災の条件が、「半壊」以上でなきゃ入れないが、S

さん宅は罹災調査担当の職員がつけた判定は「準半壊」。なぜかという、床下にゴミがありすぎて柱のズレが確認できていない。柱がズレているのがわからないため。とのこと。今回のボランティアの案件は、Sさんの家の床下の長年溜められ続けたゴミを外に運び出し、柱が見える状況にする！というものでした。

活動終了後、アドラジャパン小出さんは、「Sさんの、あんな笑顔ははじめて見た！ボランティアの皆さんのおかげだ。普段、内向的で作業をすすめるのさえも嫌がるSさんが、あんな笑顔でにこっと笑う様子を見て私も嬉しいと。」おっしゃってくださいました。

Sさん宅での活動終了後は

能登瓦の外への運びだしを行いました！（午前 穴水町）

これを！



↓全部外へ運び出しました・・・



この瓦が置かれている倉庫は、前回7月の災害ボランティアの際、綺麗にした倉庫です。能登瓦はとても重く、これを4人で外へこの数分運び出すのは正直、きつかったです。気温も暑く猛暑での活動だったこともあり、汗だくでした。ボランティアさんからの意見で、「もう少し休憩をとりつつ、作業をさせてほしかった。」「NPOの人が休む間もなく作業されると、休憩を言いずらかった。」「この思い能登瓦を人力でやるのはきつすぎる。パレットに乗っていたのだから、リフト等で持ち上げるやり方でよかったのではないか。」「ボランティアのことを、ただの雑用だと思っているのか・・・ちょっと切ない。」等の意見があがりました。そんな中で、なんとか4人でやり切ったチームは強いです・・・



午後は、避難されている仮設住宅の皆さんへの、おもてなしバーベキュー（午後 甲地区）
にお邪魔させていただき、火おこしをメインに手伝いました。
お昼ごはんも、そこで一緒にいただきました！



チーム② サロン等で仮設住宅入居の皆さんが集まる集会所の草刈り（午前 甲地区）

避難されている仮設住宅の皆さんへの、おもてなしバーベキュー（午後 甲地区）



チーム①、②集合写真 📸



チーム③ 郵便局前、倒壊家屋の道にはみ出したところの片づけ（終日 能登島）

ビフォー



アフター！！



チーム③集合写真 📸



15:00~16:00を目安に各グループ活動終了！

各グループごと、能登島 ひょっこり温泉にてお風呂に入りました！♨

18:00~

10日の夜は、みんなで集会所にて懇親会！地元の食材ふんだんに食べて飲んで

わきあいあいと、活動1日目の疲れをいやし、2日目への士気を高めました！

半浦町町会長さんが差し入れて、ビールと地元の焼き鳥屋さんの焼き鳥を持ってきてくださいました！みんなたくさん食べて、たくさん飲んでいました！



8月11日

6:30 起床・朝食

8:00 集会所 出発

9:15~活動開始

3日目（活動2日目）は、14名全員での活動となりました。

活動内容は、お手伝いJAPANの山崎さん調整のもと
能登島 鯨目町の倉庫にて活動に入りました。

鯨目町の副区長さんの依頼を受けての活動でした。

倉庫の二階に荷物を手分けして、外に運び処分
するといった内容でした。

みんなで力を合わせた結果、半日でこの現場を
片づけることができました！

副区長さんも「こりゃすごい！ありがたい！」
とおっしゃってくださいました。



作業がはやく終わったので、作業終了後は

急遽、「和倉温泉 総湯」で汗を流すことにしました！



18:00 小布施ハイウェイオアシス 着



メの会を簡単にし、みなさんと「お疲れ様でしたー！」をし、それぞれ帰路につきました。
今回は、まだ明るいうちに帰ってくることができ、そこはすごく良かったです。

5 参加メンバー

別添名簿参照

名簿内 欠席者：小林正孝様（南海トラフの影響から自宅待機 仕事の関係で）

途中離脱者：菊地正太郎様、菊地龍生（コロナ陽性判定のため）

【まとめ】

- ・今回は、過去一番に気温が高い中での活動でした。
熱中症等に気をつけ、タイムキーパーをおき、こまめな休憩、水分補給を意識しました。
- ・現地で活動しているNPOさんと、ボランティアさんの意見がぶつかるシーンもあったのですが、どちらの意見も間違っていないし、ときにそういうぶつかりも大切だと感じました。
- ・宿泊場所の町会長さんや、活動でらせていただいたお宅の皆様がとてもあたたかくしてくださり、ボランティアに精が入りました！
- ・夜行プラン単発より、やはり宿泊が身体の疲労的にもいいなと感じました。
- ・10日の朝に熱発し、現地の病院にて検査の結果、コロナ陽性だった菊地龍生くんも、はやめの対応ができたこと、ほかの人に誰にも移らなかったことは本当によかったです。

現地ボラセンは、どんどん閉鎖していく状況。

ただ、能登の様子からはまだまだな部分もあるように感じます。

今回の、活動で社協としては一旦、ひと段落かとは感じますが、現地でのニーズや状況によっては再度、年内を目途に活動したいという気持ちでいます。

お金の面でも、長野県みらい基金の助成金（154,000 円）の申請も通っているので、そこも踏まえて今後の活動を検討していきたいです。

今回はボランティアに行かせていただき、本当にありがとうございました。



復 命 書

2024年10月29日

社会福祉法人須坂市社会福祉協議会
会長 豊田 清寧 様

職員 助け合い起こし推進係 湯本 健太

須坂市社会福祉協議会主催、チームながでん様協力（財源 長野県みらい基金助成金活用）にて、石川県珠洲市で災害ボランティア活動を行うため出張しました。概要は下記のとおりです。

記

1 日 時 2024年10月15日（火）～16日（水）

2 場 所 珠洲市災害ボランティアセンター

3 参加人数 12名（車2台：社協日赤車ノア、ジャパンレンタカー ハイエースグラントキャビン）

4 行程・活動内容

10月15日

20:30 小布施ハイウェイオアシス 集合

21:00 小布施ハイウェイオアシス 出発



信州中野 IC 乗車→有磯海 SA にて休憩→小杉 IC 降車→小杉 IC 付近のスタンドにて全台給油→小杉 IC 付近のスタンド向かいのセブンイレブンにて買い物→穴水駅へ道の駅 あなみずにて一同、仮眠（車中泊）

10月16日

2:10 穴水駅（道の駅 あなみず） 着

今回は、夜行日帰りプラン。能登空港も夜間は閉鎖しているため、途中の穴水駅（道の駅 あなみず）にて車中泊、外ベンチ泊にて仮眠をとらせていただきました。外の気温も暑くも寒くもなく、とてもちょうどいい気候でしたので、外のベンチで寝た組も気持ちよさそうに眠りについていました。雨も途中降りました。



5:30 起床・朝食

6:40 穴水駅 出発

7:00 八幡のすしべん 穴水此本店 着

八幡のすしべん 穴水此本店にて、活動日(10月16日)の昼食を購入しました。

すしべんという名前ですが、すし専門ではなく、ご当地のお弁当屋さん!(寿司も売ってます!)

朝7:00から営業していることもあり、お客さんもたくさん賑わっていました!

なにより感動したのが、おかずのみ入っているお弁当の容器に、炊き立てのご飯を炊飯器からよそってくれることでした!



8:15 珠洲市災害ボランティアセンター 着





災害ボランティアセンターにて、活動中の注意、マッチングを受けた後、現場へ向かいました！
12名全員での活動となり、レンタカーハイエースグランドキャビン、ボランティアセンターの軽トラ2台、2トントラック、計4台でお宅まで移動。

そのお宅は、一部半壊の認定を受けていて、地震により活用不可な家財等をひたすら運び出しました。もともとは、衣類関係の仕事をしていたお宅ということもあり、糸や毛布等がたくさん出てきました。運び出した家財を、最終処分場に軽トラック、2トントラックでピストンで運び綺麗にしていくという作業でした。

今回は、水害の支援のつもりでいしましたが、地震による被害の活動がほとんどでした。

なかには、「この作業は、ただの片づけなんじゃないかな・・・ちょっと違うんじゃないか。」

それも一つの大切な意見。でも、それに対して

「どんな作業であれ、困ってることには変わらないし、それでもやってかなければ、前に進んでいかない。だからこんな作業でもやっていかなきゃ！」とおっしゃっている方もいました。



途中、お昼休憩（昼食）は、珠洲市災害ボランティアセンターにて取りました。

現場（珠洲市飯田町）からボラセンも車で3分と近いところにありました。

また、現場（飯田町）からゴミの最終処分場も車で5分ほどのところにあり作業がスムーズでした。

14:30 活動終了・ボランティアセンター 帰着



15:15 珠洲市災害ボランティアセンター 出発

(能越県境PAにてトイレ休憩、小杉インター付近ガソリンスタンドにて2台給油)

19:00 有磯海SAにて夕飯休憩

19:35 有磯海SA 発

21:40 小布施ハイウェイオアシス 到着

メの会を簡単にし、みなさんと「お疲れ様でしたー！」をし、それぞれ帰路につきました。

思っていたよりも、はやく帰ってくることができ、レンタカー返却時間も間に合ったので良かったです。

5 参加メンバー 別添名簿参照

【まとめ】

- ・今回は、水害支援ではなく、地震に対する支援でした。
ゴミの最終処分場も、地震に対するゴミと水害に対するゴミでわかれておりました。
- ・仮眠を穴水駅（道の駅 あなみず）でしたのですが、外のベンチで寝る人もいました。外で寝るにしても過ごしやすい気候で良かったです。
- ・「この作業は、災害ボランティアではなく単なる片付けじゃないか。」と言ったボランティアさんに対し、「たしかにそう思う。でも、こういった作業でもやってかないと前に進んでいけないから大事な作業なのかもしれないね！」と言っていました。

現地ボラセンが、どんどん閉鎖していく状況の中で、思いもよらずに起こった水害。

地震の被害も大きかった輪島・珠洲もさらに水害の被害を受けました。

社協としても前回の活動で一旦、ひと段落かなと思いましたが、またこうして共に夏を頑張った仲間と再会し、活動してことができました。

長野県みらい基金の助成金（154,000円）も活用できたので良かったです。

次回は、10/29～30の夜行プランで石川県輪島市です。（社協 新谷さん担当）

今回はボランティアに行かせていただき、本当にありがとうございました。

復 命 書

2024年11月5日

社会福祉法人須坂市社会福祉協議会

会長 豊田 清寧 様

職員 助け合い起こし推進係 新谷 暢宏

須坂市社会福祉協議会・チームながでん様共催にて、輪島市で災害ボランティア活動を行うため出張しました。概要は下記のとおりです。

記

1 日 時 2024年10月29日(火)～30日(水)

2 場 所 輪島市災害たすけあいセンター(輪島市災害ボランティアセンター)
(石川県輪島市宅田町41)

3 参加人数 13名(車2台:社協日赤車(ノア)、レンタカーグランドキャビン、自家用車(1名現地集合))

4 参加メンバー 別添名簿参照

5 行程

10月29日 21:00 小布施ハイウェイオアシス 出発 → 22:50 有磯海SA 着 → 23:10 有磯海SA 発 →

10月30日 1:37 道の駅能登食祭市場 着 → 1:50 道の駅能登食祭市場 発 → 2:50 下唐川集会場 着 → 7:15 下唐川集会場 発 → 7:20 すしべん 穴水此木店着 → 7:33 すしべん 穴水此木店発 → 8:30 輪島市災害たすけあいセンター着 → 9:30 輪島市災害たすけあいセンター着 発 → 9:50 被災者宅着(活動開始) → 15:00 被災者宅着発 → 15:15 輪島市災害たすけあいセンター着 → 15:35 輪島市災害たすけあいセンター発 → 18:45 有磯海SA 着 → 18:44 有磯海SA 発 → 21:15 小布施ハイウェイオアシス 着

6 内 容

午前・午後ともに被災者宅の泥出し

今回は水害の支援で輪島市へ行きました。

「災害ボランティアセンター」ではなく「たすけあいセンター」としているのは、これからの輪島はボランティアの方だけでなく、地域住民同士も助けあって生活しないといけない!との

思いで「たすけあいセンター」としているようです。

「地震は何とか耐えられたが、水害が起き、大事なものが水に浸かって使えなくなったりして
る人もいてみんな心身共に疲弊している。被災者の方に寄り添いながら活動して欲しい。」と輪
島市社協の担当が話しているのが印象的でした。

被災者宅へ行くと、大雨災害の影響で自宅近く山の土砂が流れてきて、側溝を埋めている状態
でした。トイレが汲み取り式で、水が流れないからポンプを使って水が流れるようにしていまし
た。なので、今回は水が流れるように 1 日中側溝の泥出しをしました。泥の中には大きな石や
鬼瓦などもあり、かなり大変でした。

自宅近くの泥は出しましたが、隣の土地の側溝も泥が溜まっているので、結局川までは流れて
いかず…機材を使って泥出しした方が効率いいのでは？そもそも広い範囲で泥が詰まって水が
流れてないからボランティアだけでなく行政ももっと協力した方がいいのでは…との声も
ありましたが、とにかくできることをやろう！と一致団結してやりました。

1 日かけて、何とか自宅周りの側溝はほとんど出すことができ、水が流れるようになりました。

被災者の方は、ボランティアさんも依頼しておるけど、1 週間くらい来ないこともあって、忘
れられてるのかと思った…と話していました。

今後も継続してボランティアとして復興に協力していきたいと思いました。

今回はボランティアに行かせていただき、ありがとうございました。

復 命 書

2025年1月27日

社会福祉法人須坂市社会福祉協議会
会長 豊田 清寧 様

職員 助け合い起こし推進係 新谷 暢宏

チームながでん様主催にて、輪島市で災害ボランティア活動を行うため出張しました。概要は下記のとおりです。

記

1 日 時 2025年1月24日(金)～26日(日)

2 場 所 輪島市災害たすけあいセンター(輪島市災害ボランティアセンター)
(石川県輪島市宅田町41)

3 参加人数 10名、車2台：ノア、ハイエース(2台とも社協車)

4 参加メンバー 別添名簿参照

5 行程

〇1月24日 20:50 小布施ハイウェイオアシス 出発 →22:32 有磯海 SA 着 →22:57 有磯海 SA 発 →23:23 出光472号小杉インターSS店着 →23:45 出光472号小杉インターSS店発

〇1月25日 0:22 県境PA着 →0:29 県境PA発 →1:37 下唐川集会場 着 →7:35 下唐川集会場 発 →7:40 すしべん 穴水此木店着 →7:59 すしべん 穴水此木店発 →8:20 輪島市災害たすけあいセンター着 →8:50 輪島市災害たすけあいセンター発 →9:00 被災者宅着(活動開始) →14:43 被災者宅着発 →14:53 輪島市災害たすけあいセンター着 →15:22 輪島市災害たすけあいセンター発 →15:29 輪島 KABULET 着 →16:42 輪島 KABULET 発 →17:09 すしべん 穴水此木店・どんたく穴水店着 →17:51 すしべん 穴水此木店発 →17:58 下唐川集会場 着

〇1月26日 →7:26 下唐川集会場 発 →7:32 すしべん 穴水此木店着 →7:36 すしべん 穴水此木店発 →8:14 輪島市災害たすけあいセンター着 →9:11 輪島市災害たすけあいセンター発 →9:26 被災者宅着(活動開始) →13:31 被災者宅着発 →13:41 輪島市災害たすけあいセンター着 →14:05 輪島市災害たすけあいセンター発 →15:26 県境 PA 着 →15:40 県境PA発 →16:15 出光472号小杉インターSS店着 →16:20 出光472号小杉インターSS店発 →17:42 有磯海 SA 着 →18:40 有磯海 SA 発 →19:39 小布施ハイウェイオアシス →20:10 小布施ハイウェイオアシス →20:15 玉井セルフ村山店 →

6 内 容

1/25（土）・26（日）ともに被災者宅の泥出しをしました。

今回は水害の支援で輪島市へ行きました。

「写真撮影は基本的には OK です。先日もテレビの報道では、緊急性のあるニーズはほぼ無いとやっていましたが、そんなことはありません。水害があり、未だに断水している地域もあります。被災し疲弊している方が多くいます。被災した方に寄り添いながら行動してください。」輪島市社協の担当が話しているのが印象的でした。

被災者宅へ行くと、大雨災害の影響で近く山の土砂が流れてきて、側溝を埋めている状態でした。2日間かけてひたすら泥を出しました。魚の加工場で水は排水される側溝なので、魚と泥のにおいかなりすごかったです。加工場のすぐ後ろが山なので、また雨が降ったら側溝が埋まってしまうのでは…と感じました。土を掻き出す人、土嚢袋を作る人、運ぶ人など役割分担をして、要領よくできたので、2日目の午前中には側溝はほとんど出すことができ、水が流れるようになりました。

泊めさせていただいた場所の区長さんや現地の社協の方とお話をしたところ

- ・地震はまだしも、水害で水ついちゃうと使えなくなるものが多く、心が折れてしまった。断水している地域もまだあるしね。
- ・若い人は地震で金沢や県外に出て行ってしまった。仕事が無いからしょうがないけど。能登に残った人は年配の人が多い。
- ・沿岸部は液状化が起こり、地面の高さが変わってしまったので、家を建てられない。地面を直すのも何年先になるやら…

とのお話がありました。輪島市では、当初は雪が降るまでにある程度終わらせたかったとのことですが、ニーズはまだまだあるそうです。今後も継続して、復興に協力していきたいと思いました。

今回はボランティアに行かせていただき、ありがとうございました。

○1 日目



○2 日目







○3 目目





令和6年能登半島地震災害支援基金 ながの寄付助成（第2期助成）
実績報告書

2024年12月28日

公益財団法人長野県みらい基金 理事長 様

所在地 〒381-0211
長野県上高井郡小布施町羅田 676
団体名 一般財団法人 日本笑顔プロジェクト
代表者職氏名 林 映寿



「令和6年能登半島地震災害支援基金」の助成事業が完了したため、下記のとおり報告します。

記

1 事業名

令和6年能登半島地震災害支援活動

2 助成対象事業の実施期間

2024年 8 月 9 日 ～ 2024年 11 月 30 日

3 実施した取り組み

(この事業で具体的に行った災害支援、誰に・いつ・どこで・何をどのように行ったのか)

令和6年に発生した能登半島地震に対し、日本笑顔プロジェクトは、珠洲市を中心に災害支援活動を展開しました。地震発生直後から、重機を活用した道路啓開や貴重品の搬出、家屋の保全、入浴支援等の多岐にわたる支援活動を実施し、延べ500名以上のメンバーが参加しました。

1. 道路啓開作業

- 支援内容: 地震により崩落した道路の復旧を目的に、重機を使用した瓦礫の撤去や道路の再整備を実施しました。
- 支援者: 日本笑顔プロジェクト職員、重機資格を有するメンバー、NPO 連携メンバー
- 実施方法: 災害発生当初から迅速に重機を用いて、交通の確保や救援物資輸送のための安全な通行路を整備しました。

2. 貴重品や車両の搬出支援

- 支援内容: 家屋の倒壊や土砂崩れによって埋もれた貴重品や車両の搜索・搬出を行いました。
- 支援者: 重機資格を取得したメンバーおよび連携する NPO の支援者
- 実施方法: 被災者の要望を聞きながら、慎重に重機を操作し、無事に物品を搬出しました。

3. 家屋保全作業

- 支援内容: 余震に備え、被災した家屋の崩壊を防ぐための保全活動を行いました。建物の一時的な補強や防水シート、屋根の補修、防水シートの設置を行いました。
- 支援者: 日本笑顔プロジェクトメンバーおよび連携する NPO 団体
- 実施方法: 上がってきているニーズをもとに、緊急性の高い場所から順次対応しました。

4. 入浴支援

- 支援内容: 地震により断水状態が続いた地域に対し、日本笑顔プロジェクトで所有しているドラム缶風呂を持参し、避難所近くの湧水を利用し湯を薪で沸かし、避難所となっている施設の湯船に移し利用していただく。
- 実施方法: 被災者が安心して衛生を保つことができる環境を提供し、日常生活の回復に寄与しました。

4 達成できた状態・成果

(この事業で具体的に実現できた状態、被災地や被災者の方ほどのような助けを得られたのか)

- 重機のレンタル費および燃料費
- 搬送・保全活動に使用する資材費 (防水シート、木材等)
- ボランティアの交通費・宿泊費

瓦礫の撤去作業や、倒壊した建物の解体作業に重機を使用しました。特に、倒壊した家屋の下敷きになった物資の救出や、二次災害の防止のための緊急対応において大いに役立ちました。

被災した建物、家財の保護に、防水シートや木材などの資材を使用しました。これにより、雨漏りや強風によるさらなる被害を防ぐことが出来ました。

ボランティアの交通費や宿泊費を支援することにより、より多くの人材が現地での復興作業に参加することが可能となりました。彼らは、瓦礫撤去、物資配布、住居の応急補修など、さまざまな活動を行いました。

重機のレンタルおよび燃料費、資材費、ボランティアの交通費・宿泊費を適切に活用することにより、被災地および被災者の復興活動が大きく進展したと思います。これにより、被災者の生活基盤の回復と安全確保が実現され、地域の復興に大きく寄与する結果となりました。

5 本基金の寄付者へのご報告 (メッセージ)

この度、皆様からのご寄付により、被災地での支援活動を無事に実施することができました。心より感謝申し上げます。

いただいたご寄付は、以下の活動に充てさせていただきました。

- 重機のレンタル費および燃料費を活用し、倒壊した建物や瓦礫の撤去作業を迅速に行いました。これにより、道路の復旧や安全な移動経路の確保ができ、被災者の皆様がより早く日常生活を取り戻せるよう支援しました。
- 防水シートや木材といった資材を使用し、被災した建物の応急補修や仮設住宅の設置を行いました。これにより、被災者の方々が安全で雨風をしのげる生活空間を確保することができました。
- ボランティアの交通費や宿泊費を支援することで、多くのボランティアが被災地での復興活動に参加することができました。彼らの力を借り、広範囲にわたる支援活動が迅速に進行しました。

皆様からのご支援により、多くの被災者が生活を再建する一歩を踏み出すことができました。これもひとえに、寄付者の皆様のお力添えがあつてのことです。

(様式第3号)

引き続き、私たちは被災地の復興支援に全力を尽くしてまいります。今後とも温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。
重ねて、心からの感謝を申し上げます。

6 事業の実施状況を示す書類（別添）

- (1) 収支報告書（様式第3-1号）
- (2) 収支報告書の証拠書類（領収書原本等）
- (3) 活動の実施風景写真（外部公開可能なもの）
- (4) その他参考資料（事業の経過や成果を証するもの）

















令和6年能登半島地震災害支援基金 ながの寄付助成(第2期助成)

実績報告書

2025年 3月 21日

公益財団法人長野県みらい基金 理事長 様

所在地

〒380-0921

長野市栗田 2277 東口キャンパス

団体名

清泉女学院大学

代表者職氏名

田村 俊輔



(印)

「令和6年能登半島地震災害支援基金」の助成事業が完了したため、下記のとおり報告します。

記

1 事業名

令和6年能登半島地震による被災者に対するボランティア活動

2 助成対象事業の実施期間

2024 年 9 月 4 日 ～ 2025 年 3 月 8 日

3 実施した取り組み

(この事業で具体的にを行った災害支援、誰に・いつ・どこで・何をどのように行ったのか)

<活動背景・目的>

災害看護学を学んだ学生の被災者支援を行いたいという思いから、本活動を開始した。被災住民の方々が一日も早く元の生活に戻ることができるよう看護の知識と技術を用い、① 復旧期の被災者支援活動 ② 被災者および支援者の健康支援活動を行うことを目的とした。

<参加メンバー>

清泉女学院大学 看護学部看護学科：1年生 2名、2年生 3名、3年生 4名、4年生 5名(計14名)

清泉女学院大学 看護学部教員：2名

<活動内容>

第1回 ボランティア活動

1. 活動日時：2024年9月4日～9月5日

2. 活動場所：①石川県鳳珠郡能登町 遍照寺 ②石川県鳳珠郡能登町 交流宿泊所「春蘭の里」

3. 参加メンバー：看護学生9名(1年生2名、2年生3名、3年生4名)、教員2名

4. 協力団体：長野県社会福祉協議会 石川県能登町社会福祉協議会 災害NGO「結」

5. 実際の活動：

① 復旧期の被災者支援活動

9月4日 遍照寺にてボランティア活動を行った。遍照寺は海沿いにあり、発災当日の津波によ

り本堂が損壊した。住職夫妻の依頼で、以下の作業を実施した。

- 1) トタン屋根の修理：雨漏り部分を修復テープで補強した。
- 2) 津波で汚染した輪島塗のお膳や食器類の洗浄および収納：洗浄と吹き上げを行った後、大きな段ボールに収納。津波の届かない棚に設置した。
- 3) 本堂周辺の草取り：草取りまでは手が回らないため、敷地周囲の草取りを行った。草の中には、漂流物と思われるゴミがあり、ゴミも片付けた。

② 被災者および支援者の健康支援活動

9月5日 交流宿泊所「春蘭の里」の食堂で、地元住民の方々と交流会を行った。「春蘭の里」は農家体験ができる農家民宿群で、交流所は廃校になった小学校を使用している。地震による建物への被害はなかったため、発災直後から地域住民の避難場所となっている。

- 1) 参加者 7名：地元住民6名（高齢女性3名、高齢夫婦1組、中年女性1名）

ボランティアにきている男性1名

2) 交流会の内容

- ①健康相談：血圧測定を行い、住民の方の体調を確認した。普段の食事生活や心配事がないかお話をうかがった。
- ②レクリエーション：参加者と学生全員が参加できる、折り紙・風船バレー・合唱を行った。皆で作った折り紙は、共同トイレの扉に飾った。
- ③足浴：リラックスした時間過ごしてもらうよう、足浴を行った。

3) 「春蘭の里」代表 多田様の講話

能登半島地震発災当日から、現在までの経緯をお話していただいた。避難場所として地域住民に宿泊施設を開放したこと、水・食料・電力をどのように確保したか、長野県がいち早く支援に来てくれたことなど教えていただいた。

4) 交流所での作業

隣接する体育館に漫画本が保管しており、交流所に訪れた方がいつでも読めるようにしたいとのことであったため、交流会実施後に運搬作業を行った。

第2回 ボランティア活動

1. 活動日時：2024年11月2日～11月3日

2. 活動場所：①石川県輪島市里町地域 ②石川県鳳珠郡能登町 交流宿泊所「春蘭の里」

3. 参加メンバー：看護学生4年生5名、教員2名

長野市災害ボランティア委員会より2名参加

4. 協力団体：長野県社会福祉協議会 長野市災害ボランティア委員会

石川県能登町社会福祉協議会 災害NGO「結」

5. 実際の活動：

① 復旧期の被災者支援活動

11月3日 輪島市里町にある被災者地空地の集積土の撤去および散乱しているゴミの回収作業を行った。里町地域は、能登半島地震の被災後、さらに能登半島豪雨の被害を受けた地域であった。集積土やゴミは、豪雨災害の時に出土のものようであった。空地には山盛りの集積土が2ヶ所あったため、軽トラックの荷台に土を積み、指定の廃棄場所まで何往復も運搬した。また、空地内には瓦礫やプラスチック破片、漂流してきたと思われる日用品などが散乱していた。ゴミを回収し、敷地の隅に集めた。

② 被災者および支援者の健康支援活動

11月2日 交流宿泊所「春蘭の里」の食堂で、地元住民の方々と交流会を行った。9月5日に続き、2回目の交流会開催となった。

- 1) 参加者 8名：地元住民6名（高齢女性5名、高齢男性1名）、「春蘭の里」職員の方2名

第1回の交流会に参加した方2名が、今回も参加してくれていた。また、今回は輪島市在住

だが能登半島豪雨で住めなくなり、避難してきている方が参加していた。

2) 交流会の内容

- ①健康相談：血圧測定を行い、住民の方の体調を確認した。今回も、普段の食事生活や心配事がないか話をうかがった。血圧が高い参加者が2名おり、保存食など塩分が多い食事を摂っていたため減塩指導を行った。
- ②風船バレー：参加者と学生全員が参加できる、風船バレーを行った。
- ③足浴：リラックスした時間過ごしてもらうよう、今回も足浴を行った。
- ④セラピューティックケア：地震に加え水害の被害にも遭い、疲れやストレスの蓄積していることが予測されたため、簡単にできる背部～上腕部にかけてのマッサージを全員で行った。

3) 共同トイレの扉の装飾

第1回の交流会では、皆で作ったハロウインの折り紙を共同トイレの扉に飾った。ハロウインの時期が過ぎたため、クリスマスイメージした折り紙を作成し共同トイレの扉に飾った(今回は交流会で折り紙を作成する時間が取れなかったため、学生の方で作成した)。

第3回 ボランティア活動

1. 活動日時：2025年3月7日～3月8日
2. 活動場所：①石川県鳳珠郡能登町 能登町役場
②石川県鳳珠郡能登町 交流宿泊所「春蘭の里」
3. 参加メンバー：看護学生4年生4名、教員2名
ボランティア看護師1名
4. 協力団体：長野県社会福祉協議会
石川県能登町社会福祉協議会 支え合いセンター
5. 実際の活動：
 - 1) 能登町イベントサロン『うえるのとカフェ』への参加
 - ① 脳トレ：看護学生が作成した脳トレ(能登の特産品・地名・方言のカード20枚)を全員で行った。
 - ② 血圧・SP02測定および健康相談
 - ③ バーバリウム会場の誘導と作成介助
 - 2) 第3回「春蘭の里」地元住民との健康支援交流会
 - ① 血圧・SP02測定および健康相談
 - ② 脳トレ 能登の特産品・地名・方言のカード20枚
 - ③ 風船バレー
 - ④ 足浴

4 達成できた状態・成果

(この事業で具体的に実現できた状態、被災地や被災者の方はどのような助けを得られたのか)

① 復旧期の被災者支援活動

被災者の寺院兼住宅の修理や汚染された食器などの洗浄と片付け、集積土と漂流物の片づけなどを行うことで、被災された家族だけでは手が回らない・高い場所の作業でできない・誰かが手を貸してくれれば重い荷物を片づけることができるといった、被災者の生活に寄り添った活動ができました。また、住みやすい環境を整え、ゴミや汚れなどいつまでも災害を思い起させるものを目にする機会を減らすお手伝いができたのではないかと考えます。災害 NGO のスタッフの方が言っていたことですが、「ゴミや土の片づけはいつやってもいいことだが、被災者が綺麗に片づいているのを見た時に何か行動を起こそうと思ってもらえるかもしれないから続けている」と教えてくれました。2回のボランティアとも1日ずつの短い活動ではありましたが、綺麗に片付いた場所を見ることで心の復興に繋がる小さな足がかりを作れたのではないかと考えます。

② 被災者および支援者の健康支援活動

今回、被災者宅に同行訪問して健康相談を行う機会は得られなかった。しかし、地域住民との交流会を行うことができた。3回とも同じ交流宿泊所で行うことができたため、地域住民や宿泊所のスタッフの方とも顔見知りの関係を作ることができた。住民の方からは、「また来てくれてうれしい」「また足湯をやってもらいたいと思って参加した」といった声もあり、嬉しそうな住民の方を見た宿泊所のスタッフの方からは「嬉しそうな皆を見られてよかった」といった感想もいただいた。また、集まった方々は住民さん同士で会話を楽しんだり、ボランティアとの交流だけでなく、地域住民同士の交流の場にもなっていることがうかがえた。今回、交流会を開催した地域は高齢化率が高いという地域特性があるため、地域で生活する高齢者の引きこもり防止にも繋がるのではないかと考えます。

交流会では血圧測定を行い日ごろの生活の様子をうかがい、足浴やマッサージを行うなど看護の知識や技術を活かすことができる内容とした。高血圧症を予防する減塩指導や、様々な思いを話やすい看護の1つである足浴の実施は、被災者の体と心のケアに繋がったのではないかと考えます。

5 本基金の寄付者へのご報告(メッセージ)

この度は、本活動へ助成していただき、心より感謝申し上げます。

今回、能登半島地震の被災者の方々へのボランティア活動を行うことで、発災から1年近く経過した現在も復興が進まない現状を知ることができました。さらに、住宅再建など復旧に向け頑張っていた中で発生した9月の能登豪雨では、2度目の被害に遭われた住民の中には心が折れてしまい何も手がつかなくなってしまう方がいるということも教えていただきました。今回のボランティア活動は、そのような中でも被災地域に残って生活を再建するために日々努力している住民の方々に看護を提供できる貴重な機会でした。参加した看護学生は困っている被災者の役に立ちたいという思いが強く、自分たちが学んだ看護の知識と技術をどう活かすことができるのか考えながら活動を行いました。看護師を目指す看護学生にとって今回の経験は、たいへん大きな学びとなりました。看護の視点でみると、災害関連疾患や災害関連死の予防や被災後のこころのケアは、復興に至るまでの長期に渡り支援が必要とされます。私たちは、今回ご縁をいただいた現地の方々との絆を大切に、継続的に支援を行いたいと考えています。今後も私たちの活動にご支援をいただけますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

(様式第3号)

6 事業の実施状況を示す書類(別添)

- (1) 収支報告書(様式第3-1号)
- (2) 収支報告書の証拠書類(領収書原本のPDFおよび当方内部集計表)
- (3) 活動の実施風景写真(外部公開可能なもの)および(4) その他参考資料(事業の経過や成果を証するもの)として、活動報告書2件(写真挿入報告書)

令和6年1月 能登半島地震・令和6年9月 能登半島豪雨
第2回 被災者へのボランティア活動報告

作成日：2024年11月7日
報告者：小出由紀

I 活動概要

1. 目的

- 1) 被災した地域や住民が、1日でも早く元の生活に戻ることができるよう支援する。
- 2) 被災地でのボランティアにより、復興状況や生活状況を理解することができる。
- 3) 被災者の思いを聴き、災害中長期の看護を考えることができる。

2. 活動日時

第2回 2024年11月2日（土）～11月3日（日）

3. 協力団体

長野県社会福祉協議会
石川県能登町社会福祉協議会
災害 NGO「結」

4. 行程

日程	内容（概要）
11月2日（土）	6:30 清泉女学院大学東口キャンパス出発 →レンタカー2台、自家用車1台利用 上信越道～北陸道～能越道経由で現地へ 15:00 石川県能登町「春蘭の里」到着 15:40～17:15 被災者の方との交流会 18:30 宿泊施設へ移動
11月3日（日）	8:45 石川県輪島市里町 里町集会所に集合 9:00 ボランティア活動開始 被災者宅の空地に集積してある土の撤去作業および 散乱しているゴミの回収作業 11:45 昼食 14:30 ボランティア終了 17:30 災害 NGO「結」の活動拠点へ (石川県七尾市中島町外 2-1 旧西岸小学校) 18:00 帰路へ（レンタカー2台、自家用車1台利用） 22:50 清泉女学院大学東口キャンパス着

5. 宿泊先

石川県鳳珠郡能登町宮地 16-9 春蘭の里（事務局TEL 0768-76-0021）

6. 参加者

清泉女学院大学 看護学部看護学科 教員 2 名：齋藤正子 小出由紀

清泉女学院大学 看護学部看護学科 4 年生 5 名：リーダー 菊池智香子

メンバー 石田果琳 岩崎怜 坂本愛里 宮谷里菜

運転ボランティア：長野市災害ボランティア委員会 会長 村田憲明氏

長野市災害ボランティア委員会 鈴木氏

II. 活動の実際

1. 被災者の方との交流会

1) 開催日時：11 月 2 日（土） 15 時 40 分～17 時 15 分

2) 開催場所：「春蘭の里」食堂

3) 活動内容および結果

①参加者の健康相談

- ・来場した方から、血圧・SPO2 値測定を実施した。血圧測定を行いながら、普段の生活や困っていることがないかなど、お話を伺った。
- ・血圧が正常値より高い参加者が 2 名ほどおり、普段の食生活について問診を行った。保存食など塩分の多い食事を摂っており、減塩指導を行った。



②交流会開会・自己紹介

○地元の方 6 名参加（高齢女性 4 名、中年女性 1 名、高齢男性 1 名）

- ・第 1 回の交流会に参加した女性 2 名が、「また、足湯してくれるっていうから来た」といって今回も参加してくれた。
- ・能登半島地震後、自宅に帰れないため春蘭の里の宿泊施設に身を寄せながら地元に残っている方がいた。この方は 1 回目につき、今回も参加してくれた。また、自分で育てたサツマイモをご馳走して下さった。
- ・輪島に住んでいたが 9 月豪雨で住めなくなり、移住してきたという方がいた。

○「春蘭の里」の方 2 名参加（代表：多田喜一郎様の奥様と娘さん）

- ・今回の交流会開催にあたり、娘さんが地元の方々に交流会参加を呼びかけてくださった。ご協力により、雨の降る中 6 名もの方に参加いただいた。



③風船バレー

- ・参加者と学生全員で円になるよう椅子に座り、風船バレーを行った。最初は 1 個の風船からはじめ、徐々に 2→3 個まで風船を増やしながら軽い運動を全員で行った。
- ・風船を落とさないように皆で声をかけあいながら行えた。慣れてくると参加者の笑い声が聞かれ、楽しそうな様子であった。



④足浴

- ・参加者一人ずつに学生・教員がつき、リラックスした時間が過ごせるよう足浴を行った。柚とラベンダーの香りがする入浴剤を準備し、好きな香りを参加者に選んでもらい湯に入れた。
- ・足浴を行いながら、各々で雑談をした。9月の豪雨災害後、全身に蕁麻疹が出てしまったという方がいた。内服治療で軽減はしたが原因がわからず、ストレスではないかと言っていたのが印象に残った。



⑤セラピューティックケア 背部～上腕・首にかけてのマッサージ

- ・服の上からでき、道具もいらない簡単なマッサージであるため、参加者の方にも覚えてもらえるよう齋藤先生の指導のもと全員で行った。
- ・学生と参加者がペアになり、お互いにマッサージを行った。参加者からは、施術を受けると背中が軽くなり、施術を実施すると両手がボカボカと温まったという感想をいただいた。



⑦共同トイレの装飾

- ・第1回(本年9月)の時に、ハロウィンの折り紙を共同トイレに飾った。ハロウィンが終わったためクリスマスイメージした折り紙を作成し、共同トイレに飾った。



4) 参加者の感想

- ・気持ちよかった。ありがとうございました。
- ・参加できてうれしかった。
- ・長野の方が多く来てくれる。また来てくれてうれしい。皆の笑顔を見て、ホッコリした気持ちになった。
- ・肩が凝っていてマッサージに行こうと思っていたところなので、楽になった。夫にもマッサージしてあげたいと思った。
- ・若者が来てくれて、フレッシュな気持ちになった。
- ・足湯でスッキリでき、肩も温かくなってリラックスできた。

5) 学生の感想

- ・初めて被災地に来た。知らない人が来ることは、地元の方にとってはストレスになることもある上、初対面の人に靴下を脱いで足を見せるのも嫌だと思ってしまう。でも、マッサージや足湯が楽しみだと言ってもらえてうれしかった。
- ・参加者の皆さんが笑っているのをみて、私も嬉しい気持ちになった。
- ・初めて被災地に来て、皆さんとお話をしたり、ケアをしたりすることで多くを学ぶことができた。
- ・令和元年東日本台風で長野が被災した時には能登の方たちが支援に来てくれたので、今度は長野の私たちが力になりたいと思っていた。今回、それが叶った。皆さんの笑顔が見られて幸せな気持ちになった。

6) 長野市災害ボランティア委員会の方の感想

- ・看護学生と地元の方の交流会に初めて参加した。学生さんと高齢の参加者さんとの関わりをみて、母親を思い出した。

- ・今まで、泥出しなど現場でのボランティア活動だけだった。このような交流会は、人の温もりが感じられてよかった。「人を助けるのは人だ」ということを感じる事ができる会だった。



2. 被災者宅の空地の集積土の撤去および散乱ゴミの回収作業

- 1) 活動日時：11月3日（日） 8時45分～14時30分
- 2) 活動場所：石川県輪島市里町 里町集会所近く（車で数分）の被災者宅空地
- 3) 活動内容および結果

災害NGO「結」スタッフ：ディーブ氏の指示のもと、以下の作業を全員で実施した。

① 被災者宅の空地にある集積土の撤去

- ・山盛りの集積土が、空地内2ヶ所にあった。集積土を軽トラックの荷台に積み、指定の場所に運搬し破棄する作業を行った。
- ・災害NGO「結」より、スコップ・一輪車・ミノ・クワ・軽トラック1台を借用した。使用後はきれいに洗浄し、借用数を確認のうえ返却した。

② ①と同じ空地内にある散乱ゴミの回収作業

- ・空地内には、板やプラスチックの破片、枝、漂流してきた日用品や靴などが散乱していた。散乱しているゴミを回収し、敷地の隅に集めた。
- ・作業中は30-40分に1回の休憩をとり、こまめに水分補給を行った。怪我や体調不良者を出すことなく、作業を終えることができた。

【作業前】



【作業中】



【作業後】



令和6年1月能登半島地震・令和6年9月能登半島豪雨

第3回 ボランティア活動報告

作成日：2025年3月9日

報告者：小出由紀

I 活動概要

1. 目的

- 1) 被災した地域や住民が、1日でも早く元の生活に戻ることができるよう支援する。
- 2) 被災地でのボランティアにより、復興状況や生活状況を理解することができる。
- 3) 被災者の思いを聴き、災害中長期の看護を考えることができる。

2. 活動日時

第3回 2025年3月7日（金）～3月8日（土）

3. 協力団体および受け入れ施設

長野県社会福祉協議会

石川県能登町社会福祉協議会

「春蘭の里」（交流宿泊所こぶし＋農家民宿群）

4. 行程

日程	内容（概要）
3月6日（土）	12:30 清泉女学院大学東口キャンパス出発 →レンタカー1台、自家用車1台利用 上信越道～北陸道経由で富山県高岡市へ 17:00 スマイルホテル高岡駅前店到着、前泊
3月7日（金）	7:15 スマイルホテル高岡駅前店出発 能越道経由で石川県能登町役場へ 10:15 石川県能登町役場到着 イベントサロン「うえるのとカフェ」打合せ・会場準備 12:30 受付開始 学生と教員で会場案内、お茶の提供 13:00～15:00 イベントにて参加者の方と交流 15:00～16:00 イベント終了、片付け 17:30 宿泊施設「春蘭の里」到着
3月8日（日）	9:00 「春蘭の里」被災者の健康支援交流会の準備 10:00～12:00 能登町宮地地区住民との交流会 12:00～12:30 交流会終了、片付け 13:00 帰路へ 19:00 清泉女学院大学東口キャンパス着・解散

5. 宿泊先

- ・3月6日 富山県高岡市駅南 5-7-13 (TEL 0766-24-5455)
- ・3月7日 石川県鳳珠郡能登町宮地 16-9 春蘭の里 (事務局TEL 0768-76-0021)

6. 参加者

清泉女学院大学 看護学部看護学科 教員 2 名：齋藤正子 小出由紀

信州まちの減災ナースの会：嶋崎昌子

清泉女学院大学 看護学部看護学科 4 年生 4 名：STAR OF LIFE CIRCLE

菊池智香子（リーダー） 石田果琳 岩崎怜 宮谷里菜

II. 活動の実際；復旧期の被災者支援活動

1. 能登町イベントサロン『うえるのとカフェ』への参加

- 1) 開催日時：3月7日（金） 13時00分～15時00分
- 2) 開催場所：能登町役場 第1・2研修室、第1相談室、201会議室
- 3) 運営・支援団体：社会福祉協議会 5 名、生活支援相談員 5 名、民生委員 8 名、
支援団体バルシック 1 名、清泉女学院大学看護学部 7 名
- 4) 参加者：在宅高齢者 31 名（男性 2 名、女性 29 名）

※発災以降、生活支援相談員と民生委員で独居高齢者および高齢者世帯など全戸個別訪問を実施している。イベントサロン開催にあたり 1 件 1 件訪問し、参加を呼びかけたとのことであった。会場まで行くことができない高齢者もいるため、マイクロバスや公用車で送迎を行っていた。

5) 活動内容および結果

(1) 脳トレ

看護学生が作成した脳トレ（能登の特産品・地名・方言のカード 20 枚）を全員で行った。7 グループに分かれていたためグループに 1 名ずつ学生・教員がファシリテーターとして入り、5 分間で何問回答できるかを競った。グループの参加者どうしで話し合ったり笑いあったりしながら、自分たちの馴染みのある言葉を探していた。また、長野では馴染みのない特産品や方言について教えてもらい、カードをきっかけに多くの会話ができた。全体での答え合わせでは、20 問中 16～18 問回答できていた。参加者の方々は、終始楽しそうな様子であった。



(2) 血圧・SPO2 測定および健康相談

脳トレの後は、バーバリウム作成と歓談の時間であった。バーバリウム作成は 15 名ずつ交代で行ったため、歓談中の参加者の血圧・SPO2 測定を実施した。また、個別ブースを設置し、希望者には健康相談を行った。

①血圧・SPO2 測定

各テーブルを周り、希望者約 20 名の血圧・SPO2 測定を実施した。測定値を日頃の体調管理の参考にしてもらえるよう、持参した専用用紙（本日の体調と測定値を記載する用紙を作成）に記載し渡した。事前の打ち合わせで異常がある場合は社会福祉協議会職員に報告するよう指示を受けていたが、異常値を呈する参加者はいなかった。

②健康相談

2 名の健康相談に対応した。1 名は頻尿に関する相談で、受診の結果に関する思いを傾聴した。もう 1 名は浮動感のような症状が出るかもしれないとの相談であったが緊急はなかったため、かかりつけ医に相談するよう伝え了解された。



(3) バーバリウム会場の誘導と作成介助

①別会場への移動の誘導と見守り

バーバリウムの会場は 2 階だったため、会場までの誘導を行った。杖歩行の参加者もいたためエレベーターへの誘導や歩行の見守り、荷物を持つなどの介助を行った。

②バーバリウム作成の介助

袋の中から花を出す、瓶に花を入れるなど細かい作業工程があったため、うまくできない参加者を手伝った。できない工程のみを手伝い、できることは参加者に行ってもらった。



5) 感想

- ・脳トレが思っていたよりも盛り上がったのが嬉しかった。地元の名産品や地名などの言葉を選んだのがよかったと感じた。方言の意味や名産品の作り方を参加者に質問したり教えてもらったりすることで会話がはずみ、話題のきっかけとなった。
- ・参加者どうして楽しそうに話す姿が印象的だった。
- ・「今日は来てよかった。また来たい。」と言っていた参加者や、久しぶりに笑いながら話したと言っていた参加者がいた。このような会が必要だとされている意味を理解することができた。



2. 第3回「春蘭の里」地元住民との健康支援交流会

- 1) 活動日時：3月8日（土）10時00分～12時10分
- 2) 活動場所：「春蘭の里」交流宿泊所こぶし食堂
- 3) 参加者：宮地地区住民8名（高齢女性5名、高齢男性3名）、「春蘭の里」の方1名
※ 今回で3回目の参加者1名、2回の参加者3名
- 4) 活動内容および結果
 - (1) 血圧・SPO2測定および健康相談
 - ・参加者全員の血圧・SPO2値測定を実施した。血圧測定を行いながら、普段の生活や困っていることがないか等お話を伺った。特記するような健康相談はなかった。
 - ・測定値を日頃の体調管理の参考にしてもらえよう持参した専用用紙に記載し、お渡しした。異常値を呈する参加者はいなかった。



(2) 脳トレ

- ・看護学生が作成した脳トレ（能登の特産品・地名・方言のカード 20 枚）を全員で行った。2 人 1 組の 4 グループに分かれ、グループに 1-2 名ずつ学生・教員がファシリテーターとして入り、10 分間で何問回答できるかを競った。
- ・参加者どうして話し合ったり、学生にヒントをもらったりしながら自分たちの馴染みのある言葉を探していた。
- ・全体での答え合わせでは、20 問中 10～18 問回答できていた。参加者の方々は笑いながら行っており、終始楽しそうな様子であった。



(3) 風船バレー

- ・参加者全員と学生全員で円になるよう椅子に座り、風船バレーを行った。最初は 1 個の風船からはじめ、徐々に 2→3 個まで風船を増やした。風船を落とさないよう手や腕だけでなく足も使ったり、立ったり座ったりと 15 分ほど軽い運動を行った。慣れてくると風船が飛んでいった先の人に声をかけ、夢中で参加している様子がうかがえた。参加者の笑い声が聞かれ、楽しそうな様子であった。
- ・風船バレーの後、お茶と菓子を食べながら休憩をとった。



(4) 足浴

毎回好評な、足浴を今回も実施した。参加者一人ずつに学生・教員がつき、足浴を行った。リラックスした時間が過ごせるよう柚の香りがする入浴剤を湯に入れた。各々で雑談をしながら、足が温まるまで湯に足を浸けてもらった。



(5) セラビューティックケア

前回好評であったため、今回も服の上からできる簡単マッサージを実施した。学生・教員が参加者の背部から上腕・首にかけてのマッサージを行った。参加者からは、背中がポカポカと温まり、コリがほぐれたという感想をいただいた。



(6) 共同トイレの装飾

第2回（昨年11月）の時に、クリスマスの折り紙を共同トイレに飾った。クリスマスの飾りがそのままであったため、桜など春をイメージした折り紙を作成し共同トイレに飾った。



5) 参加者の感想

- ・脳トレが勉強になった。
- ・普段、体を動かさないで風船バレーは運動になった。
- ・マッサージで体がほぐれた。
- ・足湯で足がポカポカしている。よかった。
- ・この環境で楽しく笑えたこと、忘れません。
- ・ありがとうございました。
- ・みんなと楽しく過ごせてよかった。
- ・学生さんからパワーをもらった。

6) 学生の感想

- ・今回2回目の参加で、能登の皆さんの変化をみることができた。笑いながらお話ができるようになりよかった。
- ・脳トレをしたり、風船バレーで体を動かしたり、皆さん今晩はよく眠れるのではないかと思います。私の方が皆さんからパワーをもらえた。ありがとうございました。
- ・皆さんの笑顔を見て、元気をもらえた。脳トレを通して、こちらの地元のことをたくさん教えてもらった。
- ・このような温かい場所があるということは、とても大事だと感じた。この場所で、逆に私の方が癒された。
- ・この地区は、お互いに助け合っている地域だと思った。また、能登のことを教えてもらって勉強になった。
- ・令和元年台風19号災害で長野は多くの方々に助けってもらった。人と人が繋がっていることが感じられる交流会であった。本当にありがとうございました。

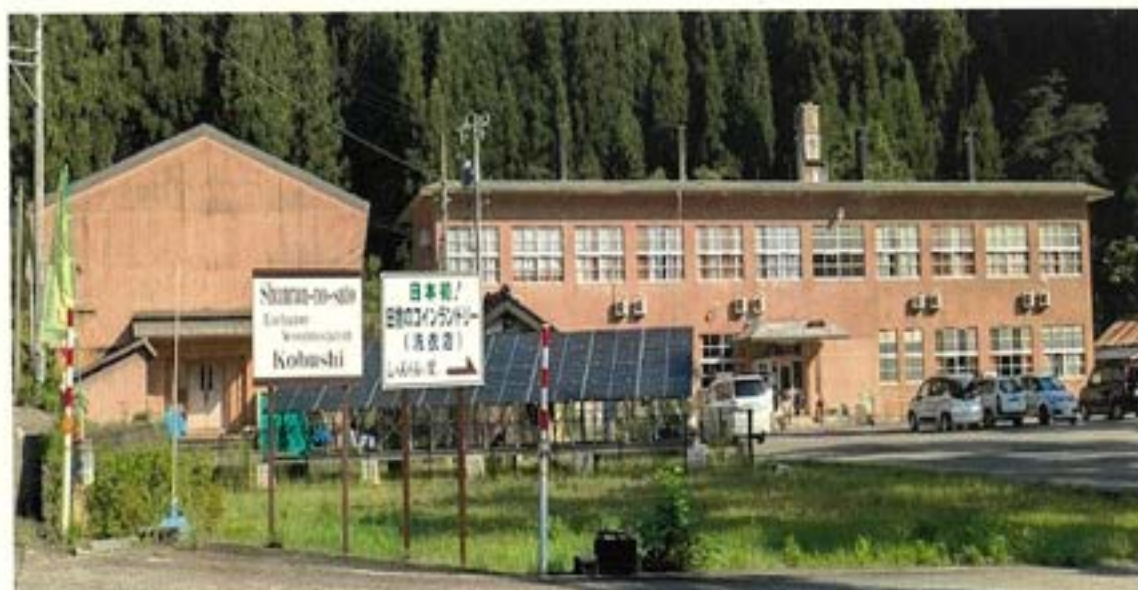


令和6年能登半島地震 第1回 被災者へのボランティア活動報告

作成日：2024年9月8日

報告者：小出由紀

活動日時	2024年9月4日（水）～9月5日（木）
協力団体	長野県社会福祉協議会 石川県能都町社会福祉協議会 ボランティア団体：結
活動場所	① 石川県鳳珠郡能都町白丸 5-72 遍照寺（電話 0768-72-1841） ② 石川県鳳珠郡能都町宮地 16-9 春蘭の里（事務局電話 0768-76-0021）
参加者	清泉女学院大学 看護学部看護学科教員 2名：齋藤正子 小出由紀 清泉女学院大学 看護学部看護学科学生 9名： 3年生（4名） 黒岩亜莉沙 宮本裕望 山岸みなみ 吉田愛 2年生（3名） 北村真子（学生リーダー） 江尻灯 坂口千加美 1年生（2名） 辰野亜矢 山崎美樹
宿泊先	石川県鳳珠郡能都町宮地 16-9 春蘭の里 交流宿泊所こぶし・農家民宿
活動目的	1. 被災した地域や住民が、1日でも早く元の生活に戻ることができるように支援する。 2. 被災地でのボランティア活動により、被災地の復興状況や生活状況を理解することができる。 3. 被災者の思いを聴き、災害中長期の看護を考えることができる。



<写真1>春蘭の里 交流宿泊所こぶし（旧宮地小学校）：1階 交流所、2階 宿泊所

9月4日（水）活動報告

行程	8時 長野駅出発 長野駅～金沢駅～能都町まで JR 利用にて現地へ 12時30分 能都町穴水駅到着、自動車にて現地へ 14時～16時 ボランティア先：遍照寺（能都町白丸）にて活動 19時 宿泊先：春蘭の里に到着
ボランティア ① 遍照寺	遍照寺：前野真海住職と奥様のもとで活動を行った。住職夫妻は発災当時、近くの高台にある白丸公民館に避難した。公民館は新築したばかりであったため、冷暖房が完備されていた（現在は公民館の上の土地に、仮設住宅が建設されていた）。大阪に住む子供さんと何とか連絡がとれ、1月2日に子供さんが迎えに来てくれたので、そのまま二次避難した。しばらく滞在し、こちらに戻ってきたとのことであった。 遍照寺の被災状況：遍照寺の目の前が海で、1月1日地震発生時は津波が発生した。津波は本堂まで到達し、本堂内は津波とともに押し流された漂流物で損壊し、物が散乱した状態だったとのことであった。「波切り地藏」があり、そこから上には津波は来なかった。本堂裏の住居は灘を逃れたため、本堂内の仏像をはじめとする物を住宅へ移動し、片付けを行っているとのことであった。 遍照寺周囲の被災状況：発災当日、各地区それぞれに高台へ避難したため、逃げ遅れで被災した住民はいなかった。新築の白丸公民館へ集まる住民が多かったとのことであった。発災と共に火災が発生した住宅もあり、特に海岸近くの住宅では、つぶれた家の柱が焼けている家が何件かあった。全壊の住宅だけでなく家が傾いたまま壁にヒビ割れが入ったままの住宅があったり、屋根にブルーシートをかぶせたままであったり、工事関係者とダンプカーの往来が多かったりと、住宅再建が進んでいない現状が見受けられた。
活動内容	以下の①～④の依頼を、分担して行った。 ① トタン屋根の修理：学生3名で、雨漏り部分を修復テープで補強した。 ② 津波で汚染した輪島塗りの食器やお膳などの洗浄および収納：学生3名と教員1名で行った。奥様の指示のもと水道水できれいに洗浄し、拭き上げた。また、奥様が一人では入れられない大きな段ボールを指定の場所に収納した。 ③ 遍照寺周囲の草刈り：草刈りを、学生3名と教員1名で行った。 活動中や休憩時間に、住職夫婦や地域の被災状況についてお話を聞くことができた。活動の最後にお経をあげてくださり、仏像にお参りをさせていただいた。また、津波被害を免れたお数珠を頂いた。



9月5日(木)活動報告	
行程	9時～11時30分 春蘭の里 交流所で地元住民との交流会 12時30分～13時15分 ボランティア先：春蘭の里 交流所にて活動 13時20分～14時 春蘭の里代表：多田様の講話 15時 能都町穴水駅出発 能都町～金沢駅～長野駅までJR利用にて帰宅
ボランティア② 春蘭の里 交流所	春蘭の里：能登町の山あいにある農家民宿群で、農家体験ができる宿泊施設が集まっている。 春蘭の里代表理事 多田真由美さんのお話：地震発生後から休業となり、地域の住民が民宿「こぶし」に自主避難していた。現在は、90歳代の女性1名が避難生活をしているが、復興作業に来ている方々などの宿泊を再開している。発災後、野菜などの食料を持ち寄った。プロパンガスなので調理には困らなかった。水は、近くの湧水を毎日、父が何度も汲みに行った。1月5日には電気が使用できるようになり、お風呂も入れるようになった。 春蘭の里の周囲の被災状況：近所の山に土砂災害の跡が残っている。全壊した家もあり、手つかずのままであった。地域住民への被害はなかった。
活動内容	1. 地域住民の方々との交流会 地元住民の方6名(高齢女性3名、中年女性1名、高齢夫婦1組)とボランティアに来ている方1名(中年男性1名)が参加してくださった。春蘭の里 食堂で交流会を行った。 ① 血圧測定(20分) 最初に、参加者の血圧測定を実施した。血圧を測定しながら、体調などについてお話を伺った。体調を崩されている参加者はいなかった。 ② おりがみ(45分) 折り鶴や、ハロウィンが近いカボチャやお化けなどを参加者と一緒に作成した。各参加者の隣に学生が座り、折り方を教えながら作成した。完成した折り紙は、トイレの入り口に飾った。 ③ 風船バレー(20分) 全員で輪になって、風船バレーを行った。 ④ 足浴(35分) 地元住民6名の方に、入浴剤を入れたお湯で足浴を行った。 1人の住民に対し、学生2名で援助を行った。 ⑤ 全員で歌を唄う(20分) 『上を向いて歩こう』『見上げてごらん夜の星』の2曲を歌った。

活動報告 つづき	住民男性の方が、春蘭の里の歌を唄ってくださった。 ⑥ 参加者・学生の感想（10分） 参加者の方より、交流会の感想などを発表してもらった。「今まで、いろんなボランティアの方が来てくれたが、足まで洗ってもらうのは初めて。気持ちよかった。」と、皆さんから感想をいただいた。 学生と教員全員も、ボランティアを受け入れてもらったお礼と感想を発表した。 2. 体育館に保管してあった漫画本を交流所に運搬、段ボールから出して並べる 春蘭の里の方からの依頼で、上記を行った。交流宿泊所に隣接する体育館には、祭りの神輿などの他、絵や本など多くが保管してあった。その中に、漫画本が入った段ボール箱が多数あった。いつでも漫画や本が読めるよう交流所内に本棚を作成予定であるとのことで、本棚を作成する部屋に漫画本が入った段ボール箱をすべて運び入れた。段ボールから漫画本を出し、同じ種類ごとに並べて置いた。 3. 春蘭の里代表 多田喜一郎様の講話 能登半島地震発災から現在まで：1月1日に発災。能登空港近くに、高齢者向け宅配弁当などの工場を運営している。会社が心配だったが、道路がデコボコしており見に行くことができなかった。宿泊施設はここしかないため、近所の人々が避難してきた。長野県の人々が、いち早く支援に来てくれた。外にあるコンテナハウス3つは、長野県の人々が寄付してくれた。中でも、家の全壊・一部損壊など建築診断をしてくれる設計士・診断士を一番に派遣してくれたので、とても助かった。家の診断が早くできたおかげで自宅に帰るきっかけとなり、3月～家に帰れるようになった。6月15日には、ほぼ全部の住民が戻って来た。90歳の高齢女性も金沢の子供さん宅に避難していたが、ふるさとへの思いが強くなり戻って来た。自宅へ入れないため、今は春蘭の里 交流宿泊所に住んでいる。 春蘭の里について：春蘭の里は、宮地地区とその奥にある地区の農家民宿50件の集まり。平成18年に宮地小学校が閉校になった。その後、役場などと約3年話し合い、校舎を利用した宿泊所にすることにして春蘭の里ができた。1階は食堂と交流所、2階は10部屋の個室になっている。部屋には冷蔵庫・コンロ・流し台・ユニットバス・エアコンが設置
---------------------	---

活動報告
つづき

されており、発災当初は避難所として家族単位で済めるようにした。この地域の上水道は、山の湧水を落差式で各家庭に引いており、各家庭に簡易浄水器がある。水力発電の他に、水素発電も行っている。発災直後、水素の使用は危険かもしれないとのことで水素発電は県から使用禁止と言われ使用できなかったが、1月5日から電気が通るようになった。水素発電や水力発電などは、自分たちでもやっているが行政の支援も受けている。ここの地域には、利便性を追求するのではなく、有事の際に困らないシステムがある。これらのシステムは、隣の地域と一緒に作ってきた。お互いの顔を知っていて、話し合いができる関係だからできた。しかし、若者が減り、高齢者が多い地域となってきた。今、この地域では、『行政に頼らない地域づくり。でも、行政が応援したくなる地域づくり』を目指している。キャッチフレーズは、『月収40万円以上、若い人が戻ってきて、赤ちゃんの泣き声が聞こえる地域』にしたいと思っている。

発災のパニックから抜け出すまでには、約2カ月かった。もともとここは、一度に修学旅行生350人を受け入れることができる地域。地震がなければ、フランスなど海外からの観光客も受入れる予定だった。外国人からの人気な理由は、作られた自然ではないから。コロナ前は年間16000人（観光客以外も含む）の来訪者がいた。昨年、ようやく13000人まで回復したが、地震で0人になってしまった。でも、回復するよう行動していく。



住民さんとの交流：血圧測定





住民さんとの交流:折り紙



住民さんとの交流:足浴



記念撮影

令和6年能登半島地震災害支援基金 ながの寄付助成（第2期助成）
実績報告書

2024年 3 月 25 日

公益財団法人長野県みらい基金 理事長 様

所在地 〒386-1212
長野県上田市富士山 1622-9

団体名 Japan unite

代表者職氏名 申 龍浩



「令和6年能登半島地震災害支援基金」の助成事業が完了したため、下記のとおり報告します。

記

1 事業名

能登半島地震ボランティア活動

2 助成対象事業の実施期間

2024年 10月 ～ 2025年 2月

3 実施した取り組み

（この事業で具体的に行った災害支援、誰に・いつ・どこで・何をどのように行ったのか）

今回現地ボランティア活動を4回に分けて行った。（以下、詳細）

10月は9月に起こった豪雨災害で被災した輪島地区にて泥かき作業などの復興支援ボランティアを行った。

11月は前回の活動で繋がった、馬繰地区の自主避難所（2025年1月閉鎖）にて、炊き出し実施。

12月は長野県内外から集まった支援金や物資等を珠洲市内中心に届けた。

2月は珠洲市内で、個人ながらたくさんのボランティア団体を受け入れている方のお手伝い（豪雪による雪かき等）

(様式第3号)

4 達成できた状態・成果

(この事業で具体的に実現できた状態、被災地や被災者の方はどのような助けを得られたのか)

Japan unite は子育て世代のメンバーが多いなかで、長期間の支援活動が難しい状況ではあるが、「できる人ができることをできるだけ」をモットーに活動してきた。

メンバーで話し合い、たとえ数日という短い期間であっても、その時にいける人が復興支援や炊き出しへ向かった。大きな支援団体ではないが、だからこそ個人的にご縁ある地元の方や、大きな支援団体では手が行き届かない場所にも支援に伺うことができた。結果、能登のみなさんからもたくさんの感謝の言葉をいただき、今後の支援につながるような新たなご縁もいただいた。

被災地の皆さんは口をそろえて「能登を忘れないでほしい。遊びに来るだけでも支援になるから。」とおっしゃっていた。

現地に赴く直接的な支援が難しい時には「能登を忘れない」という気持ちで、能登物産を取り寄せ、各地で行われるイベントなどへ出店した。

今後も継続的な支援を続けていきたい。

5 本基金の寄付者へのご報告（メッセージ）

いつもご支援・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

震災から1年以上が経ち、さらに9月の豪雨災害にて再び大きな災害に見舞われた能登半島ですが、未だに十分な復興がなされていないのが現状です。日々、報道も少なくなるなかで、多くの人の記憶からも薄れてきているように思います。

私たちの活動が、微力ではありますが、能登のみなさんの勇気になればと活動を続けております。

今後も「私たちは忘れていません。決して忘れることはありません。」という思いを持ち、継続的な活動をしていきたいと思っております。

今後ともご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

6 事業の実施状況を示す書類（別添）

- (1) 収支報告書（様式第3-1号）
- (2) 収支報告書の証拠書類（領収書原本等）
- (3) 活動の実施風景写真（外部公開可能なもの）
- (4) その他参考資料（事業の経過や成果を証するもの）







(様式第3号)

令和6年能登半島地震災害支援基金 ながの寄付助成(第2期助成)

実績報告書

2025年 6月30日

公益財団法人長野県みらい基金 理事長 様

所在地 〒381-0003
長野市穂保 679-3

団体名 炊き出し救援チーム Hundredhands

代表者職氏名 星野百代



「令和6年能登半島地震災害支援基金」の助成事業が完了したため、下記のとおり報告します。

記

1 事業名

食で繋ぐコミュニティサロン(ボランティアコーディネート)

2 助成対象事業の実施期間

令和6年 8月 9日 ~ 令和7年 5月 31日

3 実施した取り組み

(この事業で具体的にに行った災害支援。誰に・いつ・どこで・何をどのように行ったのか)

- ・2024年9月18日 珠洲市飯田町わくわく広場 お弁当250食 他物資運搬
- ※2024年9月21日 能登半島豪雨による水害発生緊急炊き出しも含め支援に動く。
- ・2024年10月1日 輪島市漆芸美術館 お弁当500食 他水なども含む物資運搬(豪雨被害による地域)
- ・2024年10月29日 珠洲市大谷小中学校 お弁当150食 他水なども含む物資運搬(豪雨被害による地域)
- ・2024年12月24日 輪島市門前町道下第2仮設住宅集会所 コミュニティビュッフェ130食 他物資運搬
- ・2025年2月11日 珠洲市蛸島第一仮設集会所 コミュニティビュッフェ230食 他物資運搬
- ・2025年3月11日 珠洲市蛸島第一仮設集会所 コミュニティビュッフェ150食 他物資運搬
- ・2025年3月25日 輪島市山岸町第2団地集会所 コミュニティビュッフェ250食他水なども含む物資運搬(豪雨被害による地域)
- ・2025年4月22日 珠洲市蛸島第一仮設集会所 コミュニティビュッフェ100食 他物資運搬
- ・2025年5月20日 珠洲市蛸島第一仮設集会所 コミュニティビュッフェ120食 他物資運搬
- ・2025年5月27日 輪島市門前町道下第2仮設住宅集会所 コミュニティビュッフェ120食 他物資運搬

10日間支援日合計>2000食

2024年12月24日 輪島市門前町道下第2仮設住宅集会所で開催したクリスマスビュッフェは、エルズボランティアグループのハンドケア、アロマフットバスと長野の飲食店ランスルールさんと共同ビュッフェを開催。

2025年2月11日 珠洲市蛸島第一仮設集会所で開催したバレンタインビュッフェでは大阪泉州の議員さんと一緒に採れたれシラスを取り入れ開催

・2024年12月24日～2025年3月10日にかけて冬の寒い期間は、長野市のボランティア委員会と連携し猫半嚙を手作りで作っていただき支援日に提供を続ける。

2025年3月25日 輪島市山岸町第2団地集会所では大阪泉州の議員さんと一緒に採れたれシラスを取り入れ開催

4 達成できた状態・成果

(この事業で具体的に実現できた状態、被災地や被災者の方はどうのような助けを得られたのか)

2024年1月1日令和6年能登半島地震が16時10分に発生。令和元年台風19号長野での災害時に救援炊き出しや救命を行った当団体が活動を開始。

発災直後現地で活動をしている仲間と連絡をとり、被災地支援団体と連携準備を行い1月10日から現地支援・炊き出し活動の準備を開始。

台風19号の千曲川決壊で被災した飲食店『炭火焼肉ジンギスカンもんも』『ご飯食べるとこ大倉』『喜多方ラーメン蔵アップルライン店』の3店舗の仲間と台風19号水害時炊き出しボランティア参加をしてくれた仲間と一緒に炊き出し食材の切り出しから仕込み、積み込み、必要な物も買い出し準備などを協力しながら行う。

現地入りしている担当者や連絡を取り、被災地炊き出し予定の目的地へ経路を確認するが現地に行ってみなければ道路事情や被災状況、被災者の状況が不明の為限界炊き出し可能数と現地で必要な物資を車3台に積み当初連絡を取り合っていた輪島市門前町支所長と話前日まで用意をして輪島市門前町での炊き出し予定だったが、1月9日に被災地に雪が降り道の陥没や割れなどで2次被害を防ぐ為炊き出し場所を急遽変更。1月10日穴水町で炊き出し開始。

毎週月曜日、火曜日に飲食店営業を臨時休業とし2日間を支援日とする。

支援日以外は炊き出し準備や仕込み、物資の買付、リストアップし被災地のフェーズに合わせて炊き出しを行う。

仮設住宅に移り公費解体を進めている状況ではあるが、スーパーや飲食店がオープンしている所も少しずつ増えてきたまだ仕事も出来ず、価格の高騰が続き以前より家計への圧迫になっており改善の見通しが無い被災地域、被災者に合わせ手が届きにくい地域をメインに長期支援を行う。

2024年9月21日 能登半島豪雨の発災後、二次災害により過酷な状況に拍車をかけた。水害は令和元年台風19号千曲川決壊による被災者支援の経験を活かし炊き出しは勿論、必要な物資や水害対応などの手引きを伝えることができた。

若い人は離れ、避難所から仮設に移ったが仮設に入る被災者は顔も知らない人との集合生活。災害前に広がったキッチンは大変狭く料理もままならない・揚げ物や料理自体をほとんどしなくなってしまった状況。

実際輪島市門前町では避難所から仮設住宅に移りすぐに亡くなった方がいる。

被災者同士で仲が悪くなったり、孤立の傾向が見受けられる。

仮設住宅に対し震災と水害によりバラバラになった地域のコミュニティの再構築のフォローアップを行い、孤立死や、孤独からの躁鬱、また生活能力の低下を防ぐ事にあり。

集会場でサロン沢山の支援者と共にビュッフェサロンを行う事によって改めて被災者同士協力しながら困難を乗り越えていけるように支援者の支援者から被災者同士の助け合いへつながるフェーズを作り上げている状況になった。

甚大的な災害の被災者は貰うのが当たり前、助けてもらうのが当たり前になっていってしまう。その当たり前を一緒に助け合い、励まし合い、孤立死、精神的孤独を生み出さないよう支え合う指針を伝えていけたと思う。

現地支援団体と被災者や被災地域の方々と協力しながら長期的な繋がりを作りあげ、食から集うコミュニティ支援から自立支援を目指した活動を行うことができた。

5 本基金の寄付者へのご報告（メッセージ）

寄付者の皆様、被災地支援へのご寄付誠にありがとうございます。私達団体の被災地支援活動は、発災直後の緊急食・物資支援から直接支援として2025年6月で35回になりました。長野では自費活動として能登商品の販売(能登半島の道の駅へ発注し販売)や能登の牡蠣小屋(数ヶ所の牡蠣業者へ直接購入し販売)など能登経済をすこしでも回す復興支援活動も行っております。私達のボランティア拠点・団体は令和元年台風19号災害長野市の千曲川決壊現場の近くにあります。

当時の災害から学んだ事、被災地の未来や希望を被災者に見出せるような支援者になれるよう活動を継続する中、2024年9月、地震災害から復旧もままならない状況で追い討ちをかけるような大雨被害。

再度緊急食・物資支援から現地支援拠点を輪島市・珠洲市に限定し支援を行って参りました。緊急食・物資支援からコミュニティ再生のための集い食支援へと移行する中、沢山の被災地・被災者の現状を経過的に見て・聞いて参りました。

避難所支援中にはおられた住民さんが被災地から移住、区長が地震で亡くなり地区の自治が崩壊、そして地区外に仮設住宅が出来、地区がバラバラになり新たなコミュニティ再構築の必要性。大雨被害も含め地震被害から隆起した海や港、企業・店舗が再建できず、職を失い家族を失った方々の現状。

被災地に残る・生きると決めた方々の寂しさや悔しさ、ライフラインの復旧の遅さや支援格差への苛立ちや不満、何も出来ない・見いだせない現況の乏しさ、仮設住宅の狭さや新たな地区コミュニティの苦悩。

現地活動ではコミュニティ再生の為に会食や高血圧体操(運動)、令和元年台風19号災害時に沢山の支援者との繋がりを活かしながらの支援、私たちは食・物・事の支援だけでなく人と人の繋がりを大切にしている団体として、『被災地で生きるを活かす』に『私達が今できること』を大切にしています。そして継続した被災地支援を重ねる中で、私たち団体は被災地(者)と共に成長し被災者の方も一緒に提供側・片付けもしています。

被災地の明るい未来を共に創造し、共に動いて頂いた仲間へ感謝し引き続き尽力させていただきます。

今後とも応援のほどどうぞよろしくお願いいたします！皆様からの寄付を賜り重ねて御礼申し上げます。

(様式第3号)

6 事業の実施状況を示す書類(別添)

- (1) 収支報告書(様式第3-1号)
- (2) 収支報告書の証拠書類(領収書原本等)
- (3) 活動の実施風景写真(外部公開可能なもの)
- (4) その他参考資料(事業の経過や成果を証するもの)





令和6年能登半島地震災害支援基金 ながの寄付助成(第2期助成)
実績報告書

2025年4月26日

公益財団法人長野県みらい基金 理事長 様

所在地 〒399-8602
長野県北安曇郡池田町会染433番地

団体名 レフヒオ ラパス

代表者職氏名 菅原 久美子



「令和6年能登半島地震災害支援基金」の助成事業が完了したため、下記のとおり報告します。

記

1 事業名

災害関連死を予防する支援活動で被災地に元気と希望を

2 助成対象事業の実施期間

2024年10月19日 ～ 2025年4月6日

3 実施した取り組み

(この事業で具体的に行った災害支援、誰に・いつ・どこで・何をどのように行ったのか)

1. エクセラン高校ボランティア部との泥かき作業と炊き出しと物資支援活動

(1) 支援概要

(ア)実施日: 2024年10月19~20日

(イ)活動内容: 輪島市豪雨被災地での泥かきや清掃作業、救援物資提供と炊き出し

(ウ)活動の目的: 今回、能登地震に対する支援として災害関連死を予防する支援内容を考えていたが、2024年9月の豪雨により輪島市などの奥能登は更なる被害を受けたことを受け、支援内容を変更することにした。状況としては、10月においても未だ被災した家屋や街中の泥かきや片付け作業に一人でも多くの手が必要状況とのことだった。また、断水も続き、スーパーも浸水被害を受けたため、十分な食材や食事が得られない状況であり、炊き出しの需要が増しているとの情報を得た。炊き出しと救援物資の配布、豪雨被災地の泥かき作業等が必要と判断し今回の支援に至った。

(2) 支援活動に向けての準備

(ア)松本市のエクセラン高校橋本先生と支援内容について調整を行なった。

(イ)NPO ホットライン信州の青木さんと提供物資について相談を行なった。

(ウ)学生を含めた人数が宿泊できる場所を調整。NPO 輪島朝市、クライマーを送る会が提

供しているボランティアのための宿の宿泊状況を確認・調整した。

(エ) 片付け作業について、輪島市ボランティアセンターと調整を行なった。

(オ) NPO 輪島朝市の中浦氏に連絡し、活動内容・炊き出しメニューについて調整を行なった。

(カ) レフヒオラバスや合同会社ヤマンザイの SNS を通して、高校生用の作業用の雨具や長靴の貸与の募集を行った。長靴や雨具は購入すると 1 人 8 千円程度かかるが、多くの方から、貸与・譲渡していただくことができた。

(キ) スーパーマーケットパローよりうどん 160 食と人参の提供をいただいた。

(ク) 池田町社会福祉協議会から、炊き出し用の大鍋や杓子をお借りした。

(ケ) 救援物資の受領：2024 年 10 月 15 日に NPO ホットライン信州から軽トラック 1 台分の救援物資を提供いただいた。物資の内容は、非常食レスキューフード牛丼、化粧品セット女性用・男性用、タオル、菓子・チョコ類など、非常食用パン、エナジーバー、ジャム、野菜（にんじん、さつまいも）、赤ちゃんのお尻ふきなど。

(3) 支援の実際

(ア) 2024 年 10 月 19 日（土）輪島市被災地での片付け・泥かき作業の実施

輪島市ボランティアセンターにて泥かき作業実施。輪島市社会福祉協議会の指示の下、被災した店舗の駐車場に堆積したヘドロの掻き出し作業を実施。輪島市社会福祉協議会には、他県からの社会福祉協議会の方がボランティアセンターの維持に携わっており、連日ボランティアを受け入れ、泥かきや片付け作業を行っていた。震災直後は、石川県はあまりボランティアを受け入れない状況だったが、今回の豪雨被害後には、できるだけ多くのボランティアに入ってほしいという状況にある。ボランティアセンターでも、本来なら朝から活動に入れる方のみ受付している様子であったが、半日でも良いので活動に入ってほしいとのことだった。豪雨被災後は震災よりも酷い状況にあり、土砂で潰れた家屋や流木が橋に引っ掛かっている状態で、今こそ一人でも多くの人の手が必要という状況であった。こういった状況を受け、一人でも多くの人が活動に参加できるように発信していく必要もあると考え、SNS やホームページで現地の状況を伝え呼びかけを行った。

(イ) 2024 年 10 月 19 日（土）輪島朝市・被災店舗の清掃

輪島朝市の被災した店舗の清掃作業。地震で倒壊や消失を逃れた店舗でも、9 月の豪雨で被害を受けた店舗は多い。清掃に入った店舗内は浸水 10 センチほどで、雨が降る度に、震災で割れて傾いた地面から水が入り込んでくる状況であった。店舗は輪島漆器を製作する学生が利用できるように利用再開を目指していた。復興に向けて準備をしている店舗の掃除を実施した。

(ウ) 2024 年 10 月 20 日（日）輪島朝市・中浦屋の店舗前をお借りし炊き出しを実施

野菜たっぷりあんかけうどん 160 食を提供した。野菜不足であること、温かい物が良いだろうとメニューを考え、見た目でも食欲がそそり元気になれるよう彩りにも配慮した。NPO 輪島朝市や被災後から連絡を取り合っている被災者の方のご協力の下で実施した。輪島朝市近郊のマリントウンの仮設住宅を利用する被災地の方々など多くの方々に来ていただいた。炊き出し開始の 1 時間半前から多くの方に並んでいただいた。エクセラン高校の学生 5 名と教師 2 名、信州レスキューキッチンカーからは高校生 1 名、大学生 1 名、大人 2 名が活動した。学生には炊き出しをしながら、一人一人の被災者の方へ声かけをするようお願いし、配布する際に声掛けを行った。

(エ) 2024 年 10 月 20 日（日）救援物資の提供

NPO ホットライン信州から提供を受けた物資の提供。軽トラ 1 台分の物資（上記記載）は、全て被災者の方にお渡しすることができた。

(オ) エクセラン高校福祉科ボランティア部 5 名による手話ソング披露。

高校生 5 名による手話ソングを披露した。被災者の方々から拍手をいただき「ありがとう」「元気をもらった」との声かけをいただいた。

(カ) エクセラン高校から NPO 輪島朝市の菓子店中浦屋の店主に、応援旗を提供。

店主によると、火災を逃れた店舗を再開をした直後に豪雨の被害を受け、店舗は泥が流入したた

め、ゼロからの出発となったとのこと。旗を受け取った店主は、涙を流していた。

2. 珠洲市と輪島市の仮設住宅における炊き出しと花の贈呈

(1) 支援概要

(ア) 実施日：2025年4月5～6日

(イ) 活動内容：珠洲市と輪島市の仮設住宅における炊き出しと花の贈呈

(ウ) 活動の目的：震災から1年3ヶ月、豪雨から半年が経過。被災直後とは違い、食事に困っているような状況ではないが、何ができるのか、必要とされるものは何かを確認すべく被災地の方々に連絡を取った。現在、自宅を失い仮設住宅で生活される方が、復興のイベントを開催しても表に出てくる人が少なくなっているとのこと。食事の提供があれば、引きこもりがちになっている人も外に出て、他の方々とのコミュニケーションが取れる場となるだろう、そのために炊き出しは有効であり是非実施してほしいと被災地からの要望があった。今回は、片付け作業の支援ではなく、災害関連死の予防にも繋がる支援をするため、コミュニケーションが取れる場の提供を目指して炊き出しを実施することに決定した。

(2) 支援活動に向けての準備

(ア) 珠洲市の被災者とは、2024年5月に支援に行ってから定期的に連絡を取り合っていた。珠洲市の行政は炊き出しの受け入れを終了していたが、被災者として珠洲市旧飯塚保育所でのまとめ役をしている方に相談をすると、ボランティア団体が継続してイベントを実施しており、ぜひ炊き出しをやってほしいとのことだった。

(イ) 輪島市の行政は能登で唯一炊き出しの受け入れを続けていた。輪島市の炊き出し調整係と連絡を取り合い、メニューや場所を決定した。

(ウ) エクセラン高校グリーンライフ部から被災地に花を届けてほしいとのことで、90鉢のパンジーの花を受け取った。パンジーは一つひとつ丁寧に鉢に植えられたもので仮設住宅の部屋の中ですぐに鑑賞できるものであった。

(エ) NPO ホットライン信州からは、今回は物価高騰のために物資が集まらず用意ができない状況のため、炊き出しの食材を入れるために使う冷蔵庫や保冷ボックスをレンタルさせていただいた。

(オ) 池田町社会福祉協議会から、鍋と蒸し器をお借りした。

(3) 支援の実際

(ア) 実施日・実施場所

4月5日珠洲市旧飯塚保育所仮設住宅、4月6日輪島市杉平仮設住宅

(イ) 炊き出し内容

各日100食分の豚まん和甘酒を炊き出した。「美味しい、幸せ、頑張ろう」と感じていただけるように、予算内で美味しい蓬莱本店の食べ応えのある豚まんを選択し準備した。甘酒はアルコールを含まないもの、運転する方やこどもでも美味しく飲めるもの、身体に良いものを選んだ。予定数以上に多くの方が集まっていたき足りないほどの盛況だった。

(ウ) エクセラン高校から受け取った花の提供

1日目は40個、2日目は50個の花を提供した。色とりどりの花が並び、どれにしようか迷われる被災者の姿もあった。花を見て笑顔になる方も多かった。

4 達成できた状態・成果

(この事業で具体的に実現できた状態、被災地や被災者の方はどのような助けを得られたのか)

- 1、2024年10月19～20日 輪島市内と輪島朝市での炊き出し・救援物資提供・片付け作業
- (ア) 輪島朝市では、震災前には多くの観光客が賑わっていた場所のほとんどが焼失してしまった。2024年夏には、輪島朝市に残っているわずかな店舗が、震災後に残っていた輪島漆器をかき集めて店を出したり、被災を間違った場所を使って商売を再開しようと動き出していた。しかし、2024年9月の豪雨により、自宅や店舗が浸水し、震災で被害を逃れた箇所も豪雨により被災してしまった方もいる。豪雨の直前には、「一方的な支援ではなく経済活動の再開のための支援をしてほしい」と輪島朝市の被災者の方に言われていたが、また被災直後の状況に逆戻りしてしまった。10月は、現地の経済活動を継続しようとしている方々の了解を得て、炊き出しと物資支給をさせていただくことになった。NP 0 輪島朝市で担当していただいた中浦さんからは、「県外からの応援は定期的に来ていただきたい。そうすれば、街にも活気が出て、復興へ前向きな気持ちになれる。また来てほしい。」とのことだった。同年に2度の大きな被害で、これから経済活動をと復興に前向きだった人々の心が折れないように、支えていく必要がある。中浦さんとは震災後に何度も炊き出しの際にお世話になり対応をいただいたが、豪雨後の中浦さんは、震災後の中浦さんよりも、心が疲弊している様子があり、商売人が涙ぐむ彼の姿は忘れられない。輪島朝市は被害が大きかったが、商売をしてきた方も多いため、復興への熱い気持ちはあるが、その気持ちは絶えないように、私たちは応援していく必要がある。今回、私たちの活動は商売再開に向けて頑張っている被災者の方々に届いたのではと思われる。
- (イ) 炊き出しでの学生たちの歌声で、涙ぐまれる方もいらっしやった。また、炊き出しをした高校生に、震災や水害の時の悲惨な状況を話してくださる方もいた。話を聞いて涙を流す学生もいた。高校生との会話を通じて、子どもに話すように当時の辛い状況を話された方もいたようで、被災した方々に少しでも元気になっていただけたのではないかなと思う。高校生にとっても良い経験になったと思われる。
- (ウ) 輪島市の街中における泥かき作業は、とにかく人手が必要であり、今回は大雨での作業のため短時間での作業となったが、それでも一つの店舗に溜まっていた泥を概ね掻き出すことができた。一つ一つの作用をこなす事で、しっかり復興へ繋げていくことができると信じている。
- (エ) 輪島朝市の焼け跡や崩れた寺などを見学し、エクセラン高校の先生が、「あのテレビにもよく出ている朝市通りはどこですか？」と聞かれたので、目の前の焼け跡と瓦礫の山を指差し、「ここが朝市通りです」と伝えると衝撃を受けた様子だった。能登の被災地は少し瓦礫の撤去は進んだものの、焼け跡や崩れた家々はまだ多く残っており、震災後から復興が進んでいると思えない。最近ではテレビでも被災地の報道はされなくなったが、現地では未だにボランティアが片付け作業を続けている。現地に行かなければ見えないものがたくさんある。できるだけ多くの方々に見ていただきたい。今回は高校生も被災地の状況を知り被災者から直接話を聞くことができ、多くの方に現状を伝えていくきっかけになったと思う。
- 2、2025年4月5～6日 珠洲市と輪島市の仮設住宅での炊き出しと花の贈呈
- (1) 珠洲市の避難所では、マッサージなどは定期的に行われていたが、炊き出しの実施は少ないため、今回は普段顔を出さない多くの人にも来ていただけたと被災者代表の方が喜んでいました。同時に行われたマッサージの会場では、「あの炊き出しは、長野から来てくれたの?」「普段は何をしている人たちなの?」などマッサージのボランティアの方に尋ねてくる方も多く、被災者はいろいろとお喋りしたい様子があった。炊き出しをしながら、少しでも多くの被災者の話を傾聴することができたことは今回の成果の一つだった。
- (2) 花の提供は大変好評だった。自宅から仮設住宅に移り畑ができなくなった方々も、お花を仮設住宅の部屋に飾ることができると喜んでいました。花など植物の提供は、物資や食事の提供とは

違った効果を持つ支援になり、被災者を元気づけることができたと思える。このような支援は、精神的な安定の効果も高いと思われ、災害関連死予防としても、今後も検討していきたい。

5 本基金の寄付者へのご報告（メッセージ）

1月の震災被害と9月の豪雨被害で、奥能登は本当に大変な状況にあります。しかし、1年4ヶ月経った今でも、瓦礫撤去は進まず放置された状況、道路も最低限の仮設道路という箇所も多く、復興が進んでいるとは言い難い状況です。また、仮設住宅は2年の期限付きであるために、自宅や仕事を失った多くの被災者は、一言では言い表せない悩みをそれぞれが抱えており、毎日不安と共に生活されています。2度の大きな被災により、復興に前向きに取り組んでいた方々の心も挫けそうな状況にあります。とにかく被災した家屋や街の片付け、気持ちを前向きにするための支援の継続も本当に必要だと思っています。目にみえる支援も、心の支援も見放すことなく繋げていくことが大切です。今回は、この助成金によって、一人でも多くの人の心に寄り添い、復興に向けてわずかでも前に進めるような支援ができたと思っています。被災地の方に元気になってもらえるように、これからも地道な支援を続けていきたいと思えます。この度は貴重な活動費をいただき、被災地での支援をすることができました。寄付をいただいた皆様には心から感謝をしております。ありがとうございました。

6 事業の実施状況を示す書類（別添）

- (1) 収支報告書（様式第3-1号）
- (2) 収支報告書の証拠書類（領収書原本等）
- (3) 活動の実施風景写真（外部公開可能なもの）
- (4) その他参考資料（事業の経過や成果を証するもの）

活動の実施風景写真





能登地震被災地炊き出し 2025 年 4 月 5～6 日(土日) 報 告

被災地は私の感覚では 1 年 4 ヶ月が経ち、もう少し復興が進んでいるのかと想像していましたが、私の予想よりも遅れておりました。輪島へ向かう海岸線も走れるようになったり、更地になった場所も増えたようでした。少しずつ復興されてはいるのですが、珠洲市ではまだ泥の掻き出し作業のボランティアもされておりましたし、壊れた家屋も道もまだまだでありました。道路は仮に直されていても、これからどのようなになるのかと心配しており、また、現状を知って欲しいという被災地の方の声もありました。

エクセラン高校の生徒のみなさんが育てられたお花は、みなさん喜んでおり、自然と笑顔がみられました。高校生が思いを込めて育ててくれたことも喜んでいました。以前はお庭で土いじりされていた方も仮設住宅では出来ず、鉢植えなら置けると喜んでおられました。また、可愛い、綺麗だと被災者のみなさんからも生徒さんにありがとうねとお伝え下さいねとの事でした。

炊き出しは 2 日間とも開催回数が少ない場所だったようです。1 日目は晴れ、2 日目は雨の中の準備から始まり、スタート時には雨が上がり喜んだものの風が強く吹いたり、慣れない中でバタバタとしましたが、現地のみなさんのお手伝いや見守りに支えられ、みなさん美味しいと喜んで頂きました！待っている間に甘酒を飲んでもらったり、何人かは椅子に座りお仲間同士で語ったりしてくれていました。ご支援いただいたみなさん、ありがとうございました。

・U さん報告より抜粋

被災者のみなさん、炊き出しとお花に、本当に喜んで頂きました。ありがとうございます！地震と洪水の二重災害、仮設住宅の期限も刻一刻と迫り、それに反して復興住宅計画の遅延、半壊と全壊の補助差異によって変わってしまった人間関係、仕事、収入、将来への不安、全てをかなぐり捨てて生まれ故郷から離れて生きる決断をして去っていく人たち、それを見送りながら残り続けるのかどうしたらいいのかわからない気持ち、日に日に引きこもっていく心理、支援やボランティアへの感謝と依存の狭間で苦悩する思いなど、もはや抱える問題も個々に悩みはそれぞれ異なり、数名のかたから伺った話だけでも、何に困っているか何を求めているかとは割り切れない、極めて混在的でシンプルに表現できない問題が多く、いろいろと考えさせられました。命や食料に関わる災害直後と、一年半後のニーズの変化と複雑化、田畑や旧家の多い珠洲と、庁舎も観光エリアも多い街中の輪島と、ニーズの微妙な違いも感じました。それらは今後も引き続きメンバーたちで話し合い、吟味、検討、模索していかなくてはならない課題だと思います。

・I さん報告より抜粋

2 日目仮設住宅にヘルパーさんが訪問されていました。仕事中とのことで、次の訪問も控えておられましたので、お花とお菓子をお渡しして、立ち話でしたがお話を伺いました。若い介護員が転出され、施設が空いていても職員不足で入所できない方がおられるそうです。当然在宅介護を余儀なくされ高齢化もあり、ヘルパーの業務量が増え行き場のない不安をお話ししてくださいました。また私自身、神城地震を経験しました。時間と共に村民同士が対立する場面もありました。環境、産業、福祉等々複雑に絡み合っているのだと思いました。

・S さん報告より抜粋